

# 最明寺本宝物集総索引稿 (一)

## 語彙索引凡例

- 一、この索引は、最明寺本宝物集に用いられている  
総ての語を、古典保存会の複製本文に基いて収載  
したものであつて、(一)自立語の部と、(二)附属語の  
部との二部から成り、自立語が附属語かの別によ  
つて、各々の語は右の索引のいずれかに収められ  
るようにしたものである。
- 一、本文の中、經典等から字句を直接に引用したも  
のは、音読、訓読の別に拘らず、自立語索引の後  
に一括して掲げた。
- 一、朱書のうち、振仮名等は原則として本文と同一  
に扱ったが、一部のものゝ自立語の後に一括して  
掲げた。
- 一、見出し語は、平仮名で歴史的仮名遣(序音語は  
字音仮名遣)によつて統一し、排列は最終音節ま

でその五十音順とした。

見出し語には、私に濁点を附した。

- 一、参照項目は、複合語の下位要素からは原則とし  
て設けていず、語彙索引の最後にまとめる予定で  
ある。

一、用例は、本文の文字を現行の表記様式に直して  
掲げた。虫損未詳のものも、推定される語の最後  
に配した。

用例の濁点は本文にはないが、文脈の理解上、  
助詞、助動詞には附した。

一、用例の所在は、底本の丁数を漢数字で、表、裏  
をそれぞれオウで、行数をアラビア数字で示した。

菅原範夫

〔第一部（自立語の部）について〕

一、見出し語は單語を原則とする。

一、見出し語には、意味識別の便宜上、その意味に当る漢字を括弧に入れて示した。

一、用例について、無活用語は、原則としてその語のみを、底本の表記に従って示した。活用語はその用法に依りて下接語（又は語句）をも示した。形式名詞、補助動詞はその上接語（又は語句）を示すことを原則とした。

一、和歌に用いられている語は、他と區別するため、所在の右肩に＊を附して示した。

一、用例の配列規準の主なるものは左の如くである。

- 1、同一單語で、仮名表記と漢字表記とのある場合は、仮名表記を先とする。

- 2、仮名表記のうち、仮名遣が歴史的仮名遣に合

うものと合わないものがある場合には合うものを先とする。

一、漢字表記の語に振仮名のあるものと無いものとがある場合には、振仮名のあるものを先とする。

4、同一單語であつて、用例の表記が全く同じ場合には、初用例の下にまとめて所在を示した。

一、活用語については、左に従う。

1、終止形を見出しとする。

2、同一單語に用例が二例以上ある場合は、下接語を含めた文節全体の五十音順とする。又、「中止法」「連体法」などは、注記して用法別にまとめた。仮名表記、漢字表記の別は、右の操作の後に配慮した。

あ

あいくわう (阿育王)

阿育王 アユウ

阿育王 アユウ

あかし (明し)

あか、りける ニニヤ

あかたやく

阿伽陀薬 ニニヤ

あかつぎ (暁)

あか月 四ウ

あき (秋) 四ウ

あき 九ウ

あき 四ウ

あき 三ウ

あきのぶのうまのにふだ

う (顕信右馬入道)

顕信の馬入道 二四ウ

あきみつ (顕光)

あき 二四ウ

あきみつ (飽満)

あき野ち (中止法) 二ウ

あく (空・聞) 三ウ

あきぬ 八ウ

あく (飽)

あかで 一六ウ

あく (悪)

悪 四ウ

あく (上) 二ウ

あけて 二ウ

あくえん (悪縁)

悪縁 四ウ

あくごふ (悪業)

悪業 三ウ

悪業 三ウ

あくしゆ (悪趣)

悪趣 三ウ

悪趣 四ウ

あくせ (悪世)

悪世 三ウ

あくだう (悪道)

あくたう 三ウ

悪道 三ウ

あくにん (悪人)

悪人 四ウ

あくびやう (悪病)

悪病 三ウ

あさし (浅し)

あさからず 三ウ

あさからぬ 五ウ

あさまし (浅まし)

あさましく 三ウ

あさましくて 三ウ

あさましさ (浅まし)

あさましさ 三ウ

あざむく (欺く)

あざむかず 三ウ

あさむぎ給はず 三ウ

あさやかなり (鮮なり)

あさやかなるには 四ウ

あしあと (足跡)

あした (朝)

あした 四ウ

あじやせわう (阿闍世王)

阿闍世王 二ウ

あそぶ (遊ぶ)

あそひ給に 四ウ

あた (敵)

あた 一ウ

あたふ (ちみ)

あたふ 三ウ

あたる (当る)

あたる (係結法) 三ウ

あつ (当)

あつまる (集る)

あつまり給へりし 三ウ

あと (後)

あと 一ウ

あな (感動詞)

あな 二ウ

あながちなり (強なり)

あなかに 三ウ

あなづる (侮る)

あなづりし 三ウ

- あなつるへからず四〇一
- あなふのくわんおむ(叱)
- 太観音一
- あのうの観音三六三
- あなうの観音三六九
- あに(豈)
- あに二〇四 五〇三 四三三
- あのくぼだい(阿耨菩提)
- 阿耨菩提二〇四
- あはうらせつ(阿防羅利)
- 阿防羅利三三〇 四〇三
- あはす(合す)
- あはせ給二六五 元三
- あはせたる二九〇
- あはせて六〇二 五〇
- 元々三三三
- あはたのうだいじんどの(粟田右大臣殿)
- 粟田右大臣殿七〇二
- あはらのつじ()
- あはらのつし元三
- あはれ(感動詞)
- あはれ八三三
- あはれなり
- あはれなるかな四〇〇
- あはれなるへし六六〇
- あはれみ(憐み)
- あはれみ三五〇
- あはれむ(憐む)
- あはれみければ二二二
- あはれみて三〇〇
- あひがたし(会難し)
- あひかたき(連体去)
- あひぐす(相具す)
- 相具して三三〇
- あひだ(間)
- あひた一〇〇 二〇一
- あひたて四〇五
- あひたて六〇〇
- あひ給へりけるにも五九〇
- あひて三九〇
- あぶぎふす(仰伏す)
- あぶきふして二〇〇
- あぶぐ(仰ぐ)
- あぶきたてまつりて元〇
- あふきて三三三 三〇三
- あべうち(安倍氏)
- 安倍氏三三〇
- あべのうち(安倍氏)
- 安部の氏三三二
- あま(海人)
- あま三三二
- あま(尼)
- あま一九三
- あま二五〇
- あまた(数多)
- あまた二五〇
- あまり(副詞)
- あまり二七三 三三三 三〇一
- あまり四三〇
- あまりなり(余なり)
- あまりに二七〇
- あみす(浴す)
- あむしき四三三
- あめ(雨)
- あめ四〇〇
- あやし(怪し)
- あやし(語幹)
- あやしむ(怪む)
- あやしまほ二二〇
- あやしみて二〇三 三〇二
- あやしむべからず二〇二
- あやす(零す)
- あやしい二二〇
- あらはす(表す)
- あらはす三三三 三五二
- あらはす(連体法)
- あらし給四三〇
- あらはなり(露なり)
- あらはにぞ六〇〇
- あらはる(表む)
- あらはれ(中止法)
- あらはれて三三〇 三三三

あり (有り) 三三〇  
 あらざりければ 三〇五  
 あらず 一〇八 三〇七 四〇五  
 六〇五 九〇五  
 あらぬこと 九〇四  
 あらば 一〇七 三三〇  
 あらまし 三〇一  
 あらましかば 三〇一 八〇五  
 あらん 六〇三 一〇七 一六〇  
 あらんずる 八〇二  
 あらんずれば 三〇五  
 あらむとては 一〇五  
 あらむや 三〇五  
 あらんや 三〇五  
 あり 一〇四 四〇四 四〇五  
 五〇七 六〇七 一〇七 一〇一  
 一〇四 三〇五 三〇五 三〇五  
 三〇五 三〇五 三〇五 三〇五  
 四〇五 三〇五 三〇五 四〇五  
 四〇五 四〇五  
 ありき 一〇五 一〇五 三〇五  
 四〇五 四〇五

ありけり 三三〇  
 ありけるが 四〇五  
 ありければ 一〇五  
 ありし 五〇五 二〇五  
 ありて 三〇五 一〇五 三〇五  
 四〇五  
 あり 三〇五  
 あり (連体法) 六〇五  
 あり (連体法) 六〇五  
 あり (連体法) 六〇五  
 ある (係結法) 三〇五  
 ある (の) の 結句 三〇五  
 あるがゆへに 三〇五  
 あるべからず 一〇五 四〇五  
 あるべし 三〇五  
 あれば 三〇五 九〇五  
 あす 四〇五  
 あ 一〇五  
 あ 一〇五  
 ありがたし (有難し) 二〇五  
 ありかたくぞ 四〇五  
 ありさま (有様) 三〇五  
 ありさま 六〇五 九〇五 三〇五

ある (或) 三三〇  
 ある 三〇五  
 或 一〇五 三〇五 三〇五  
 あるいは (或いは) 一〇五 一〇五  
 あるいは 一〇五 一〇五  
 三〇五 三〇五  
 あるい 三〇五  
 あるじ (主) 三〇五  
 あるし 一〇五  
 あんぐゑんぐわんねん (安元元年) 一〇五  
 安元 一〇五  
 あんたうじ (行願寺) 三〇五  
 行願寺 三〇五  
 あんちす (安置す) 三〇五  
 安置し (中止法) 三〇五  
 あむらくわ (菴羅菓) 四〇五  
 菴羅菓 四〇五  
 いかが (如何) 三〇五  
 いか 三〇五

いかづち (雷) 三三〇  
 いかでか (如何) 三〇五  
 いかてか 三〇五 四〇五  
 いかなり (如何なり) 三〇五  
 いかなる (連体法) 三〇五 三〇五  
 いかに (如何に) 三〇五 三〇五  
 いかに 三〇五 五〇五  
 いかのかみためなり (伊賀守為業) 一〇五  
 伊賀守為業 一〇五  
 いきのかみよりなり (志岐守頼業) 三〇五  
 志岐守頼業 三〇五  
 いきもの (生物) 三〇五  
 いく (生く) 三〇五  
 いきまり 三〇五  
 いぎぬ 三〇五  
 いくべからず 三〇五  
 いくばくなり (幾なり) 三〇五

いくはくならず 三六〇

いけ (池)

池 イケ 一〇〇〇 三六〇

いけん (意見)

意見 イケン 六〇

いころす (射殺す)

いころして 二六〇

いしずゑ (礎)

礎 イシズヱ 五〇

いそ (磯)

いそ 二二〇

いそく (急ぐ)

いそぎ 三三〇

いだく (抱く)

いたきたてまつる 二二〇

いたす (致す)

いたさ、れば 四六〇

いたして 三〇〇

いたすべき 四三〇

いだす (出す)

いたし待 五〇

いたつ (射立つ)

いたてたてまつれる

いたる (至る)

いたるまで 九〇 二四〇

いたり (中止法)

いちご (一期)

いちごひやくしやう (一  
五百生)

いちぜん (一善)

一善 二〇

いちだいけうしゆ (一代  
教主)

一代教主 二〇

いちでうゐん (一条院)

一条院 二〇

いちてんか (一天下)

一天下 九〇

いちど (一度)

一度 三六〇

いちにち (一日)

いちにち 二〇 七〇

いちにちいちや (一日一  
夜)

一日一夜 三六〇

いちねん (一年)

いちねん (一念)

一念 一〇 二〇 三〇 四〇

いちのひと (一人)

一人 三〇

いちひやくちゆじゆんない  
(一百由旬内)

一百由旬内 三六〇

いちほむのみや (一品宮)

一品宮 一五〇

一品宮 一五〇

いちまい (一枚)

一枚 一〇

いちもんじ (一文字)

一文字 一〇

いちりゆうしゆ (一両首)

一両首 四〇

いつ (何時)

いつ (一)

いづ (出づ)

いてたまはざりせば

いて給 二〇 四〇 六〇 八〇 一〇〇

いでにけり

いてぬ

いつかうに (一向に)

一向に 二〇 四〇 六〇

いつかは (何時かは)

いつかは 一〇

いつこく (一國)

一國 三〇 六〇 九〇

いっさい(一切) 二オ6 二オ7 二オ4  
 一切 二オ5 二オ6 二オ1 二オ6  
 一切 二オ5 二オ6 二オ1 二オ6  
 いっさいきやう(一切経) 二オ7  
 一切経 二オ5 二オ6  
 いっさいししゆじやう(一切衆生) 二オ5 二オ6  
 一切衆生 二オ5 二オ6  
 いっせん(一十) 二オ5 二オ6  
 一十 二オ5 二オ6  
 いっへん(一返) 二オ5 二オ6  
 一返 二オ5 二オ6  
 いづみのくに(和泉国) 二オ5 二オ6  
 いづら(何辺) 二オ5 二オ6  
 いづら 二オ5 二オ6  
 いでく(出来) 二オ5 二オ6  
 いてきてモオヲ 二オ5 二オ6  
 いと(最) 二オ5 二オ6  
 いとなむ(管む) 二オ5 二オ6  
 いとなみ(中止法) 二オ5 二オ6  
 いとなみ給 二オ5 二オ6  
 いとふ(厭ふ) 二オ5 二オ6  
 いとひ(中止法) 二オ5 二オ6  
 いとまあり(違) 二オ5 二オ6  
 不違 二オ5 二オ6  
 いなづま(稲妻) 二オ5 二オ6  
 いなづま 二オ5 二オ6  
 いにしへ(古) 二オ5 二オ6  
 いにしへ 二オ5 二オ6  
 いぬ(犬) 二オ5 二オ6  
 いぬ 二オ5 二オ6  
 いぬ 二オ5 二オ6  
 いのち(命) 二オ5 二オ6  
 いのち 二オ5 二オ6  
 いのち 二オ5 二オ6  
 いのり(祈り) 二オ5 二オ6  
 いのり 二オ5 二オ6  
 いのり 二オ5 二オ6  
 いのらざらんや 二オ5 二オ6  
 いのりし 二オ5 二オ6  
 いのり給ふ 二オ5 二オ6  
 いのり給 二オ5 二オ6  
 いのりとも 二オ5 二オ6  
 いのるべきなり 二オ5 二オ6  
 いのる口きなり 二オ5 二オ6  
 いはく(曰) 二オ5 二オ6  
 いはく 二オ5 二オ6  
 いはふ(祝ふ) 二オ5 二オ6  
 いはひて 二オ5 二オ6  
 いはほ(嚴) 二オ5 二オ6  
 いはほ 二オ5 二オ6  
 いはむや(泥や) 二オ5 二オ6  
 いはんや 二オ5 二オ6  
 いひ(謂) 二オ5 二オ6  
 いひ 二オ5 二オ6  
 いひたがふ(言違ひ) 二オ5 二オ6  
 いひたかふこと 二オ5 二オ6  
 いふ(言ふ) 二オ5 二オ6  
 いはねども 二オ5 二オ6  
 いは 二オ5 二オ6  
 いひ(中止法) 二オ5 二オ6  
 いひけるを 二オ5 二オ6  
 いひければ 二オ5 二オ6  
 いひて 二オ5 二オ6  
 いふ 二オ5 二オ6  
 いふ(連体法) 二オ5 二オ6  
 いふ 二オ5 二オ6  
 いふとも 二オ5 二オ6  
 いふは 二オ5 二オ6

三〇四 三〇三 六〇七 六〇九

いまに (今に)

いろ (色)

うかぶ (浮ぶ) (下二段)

五〇四 元〇三 三〇一 四二五

いまに

キチ

いろ 三〇一 四〇五 九〇二

うかへて 三五〇

いふ

いみ (忌)

三五〇

うく (受く)

いへり 三〇八 三〇三 七〇六

いみ

三三〇

いわう (医王)

うけ (中止法) 四三〇

三〇四 一九〇 三〇八 三二五

いやす (愈す)

三三〇

いざ (魚)

うけ (受難し)

三九〇

いやす

三三〇

いん (因)

うけ (後取る)

いへ (家)

いやす (連体法)

四〇一

いん (因)

うけ (受難し)

家

いやす

四〇一

いん (因)

うけ (受難し)

家

いやす

四〇一

いん (因)

うけ (受難し)

二八〇

いよいよ (弥々)

三三〇

いん (因)

うけ (受難し)

家

いよいよ

三三〇

いん (因)

うけ (受難し)

いへども (雖)

いる (射る)

いん (因)

うけ (受難し)

いへとも

いられ給

いん (因)

うけ (受難し)

三三〇 三〇三 三〇一 四二五

射られ給ひ

三三〇

いん (因)

うけ (受難し)

四二〇

いる (入る) (上二段)

う (得)

うけ (受難し)

いま (今)

いり給ければ

う (得)

うけ (受難し)

いま

いりて

う (得)

うけ (受難し)

四二〇 三〇三 三〇一 四二五

いりぬ

う (得)

うけ (受難し)

いま (今) (副詞)

いれども

う (得)

うけ (受難し)

いま

いれば

う (得)

うけ (受難し)

いまだ (未)

いる (入る) (下二段)

う (得)

うけ (受難し)

いまだ

いれて

う (得)

うけ (受難し)

三三〇 三〇三 三〇一 四二五

いるれば

う (得)

うけ (受難し)

三三〇

いるれば

う (得)

うけ (受難し)

三三〇

いるれば

う (得)

うけ (受難し)

三三〇

いるれば

う (得)

うけ (受難し)

三三〇

いるれば

う (得)

うけ (受難し)

三三〇

いるれば

う (得)

うけ (受難し)



鳥歌

モウ

うしなふ(失ふ)

うしなひ(中止法)

うしなふゆへに

うしろ(後)

うしろめたし(後めたし)

うしろめたき(連体法)

うす(失す)

うする(連体法)

うせさせ給にき

うせ給

うせ給ぬ

うせて

うせにけり

うた(歌)

うた(歌)

うだいしやうなりとき

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

右大将清時

うたがひ(疑)

うたかひ

うたがふ(疑ふ)

うたかふ(連体法)

うち(内)

うち

うちかつ(打勝つ)

うちかつ

うちつく(打着く)

うちつきて

うちつづく(打続く)

うちつつき(中止法)

うちどの(宇治殿)

宇治殿

うちとる(打取る)

うちとり給て

うつ(打つ)

打(連体法)

うてども

うつす(移す)

うつさる

うづむ(埋む)

うつむ

うつる(移る)

うつり給し

うてな(台)

うてな

うとむ(疎む)

うとみ給はず

うばりそんじや(優待衆)

うはり尊者

うへ(上)

うへ

うま(馬)

馬

うまぬし(馬主)

馬ぬし

うまのかみあきのぶ(右)

馬ぬし

馬頭願信

右馬頭願信

うまや(馬屋)

馬や

うまる(庄る) ↓ むまる

うまる(連体法)

うみ(海)

海

うやまふ(敬ぶ)

うやまひ給はず

うらむ(恨む)

うらみ給はず

うらみやすらん

うらむるとは

うらやまし(羨し)

うらやましくなりぬ

うらやましくも

うる(流る)

うらむ

うれし(嬉し)

うれし

うれしなむども 三才4  
うれしさ(嬉しさ) 三才1三才4

うゑ(飢) 三才3  
飢 四才4

うゑき(植木) 三才4  
うゑき 五才4

うんめい(運命) 四才4  
運命 四才4

え

え(副詞) 三才3  
え心え給まじければ 三才1

えつくらざりけるを 三才3  
えいぐわ(栄華) 一才6

えうせう(幼少) 三才3  
幼少 三才3

えだ(枝) 三才3  
枝 三才3

えふく(衣服) 三才3  
衣服 三才3

えふてら( ) 三才3  
えふ寺 三才3

えんしやう(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えむてん(炎天) 三才4  
炎天 三才4

えむまだいわう(閻魔大) 三才4  
閻魔大王 三才4

えんまわう(閻魔王) 三才3  
閻魔王 三才3

えむまわうくう(閻魔王) 三才3  
閻魔王 三才3

えんがく(縁覚) 三才3  
縁覚 三才3

えんざ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんりやくじ(延暦寺) 三才3  
延暦寺 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

えんじ(延喜) 三才3  
延喜 三才3

お

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこして 三才3  
おこして 三才3

おこる (起る)	一〇四	おとす (落す)	三〇六	おにども (鬼等)	三〇六	おはすめれ	四〇六
おこり (中止法)	一〇四	おとし給な	三〇六	鬼とも	三〇六	おはす (御座す) (下段)	四〇六
おし (鴛鴦)	二〇一 二〇二 二〇三	をとしつ	四〇六	おのおの (各々)	五〇三	おはせし	三〇六
をし	二〇四 二〇五 二〇六	おどす (脅す)	五〇三 五〇四	をのく	五〇三	おはせましか	四〇六
を	二〇七 二〇八 二〇九	おとす	五〇三 五〇四	各々	五〇三	おはせましかば	四〇六
を口	二〇九	おととぎみ (弟君)	五〇三	おのづから (自ら)	一〇四	おはら (大原)	五〇三 六〇三
おろし (暹し)	一〇五	おととぎみ	五〇三	おのづから	一〇四	大原	五〇三 六〇三
遅に	一〇五	おとる (劣る)	五〇三	おのづから	一〇四	おひたたし (頼し)	五〇三
おそれ (恐れ)	一〇五	おとらぬ	五〇三	おはします (御座ます)	三〇一	おひた、しくなりにし	五〇三
おそれ	一〇五	おどろかす (驚す)	五〇三	おはしますさ、りけり	三〇一	かば	五〇三
おそろし (恐し)	一〇五	おどろかし (中止法)	三〇一	おはしましける	三〇一	おふ (負ふ)	三〇一
おそろしき (連体法)	三〇一	おどろく (驚く)	三〇一	おはしまししければ	三〇一	おひて	三〇一
おつ (落つ)	三〇一	おとろふ (衰ふ)	三〇一	おはしまししければ	三〇一	おふ (追ふ)	三〇一
おち給	三〇一	おとろえて	三〇一	おはしましし、時	三〇一	おひて	三〇一
おちて	三〇一	おとるへゆく (衰行く)	三〇一	おはしまししにしかば	三〇一	おほあね (大姉)	三〇一
おちぬ	三〇一	おとるへゆく (連体法)	三〇一	おはしますを	三〇一	大あね	三〇一
おつと	三〇一	おなじ (同じ)	三〇一	おはしますを	三〇一	おほきなり (大なり)	三〇一
おとぎみ (弟君)	三〇一	おなじ	三〇一	おはす (御座す) (四段)	三〇一	大なる (連体法)	三〇一
おとぎみ	三〇一	おなじ (中止法)	三〇一	おはしき	三〇一	おほし (多し)	三〇一
						おほく	三〇一 三〇二 三〇三

おほくの 一ノ四 八ノ二 公ノ二

おほやう (火兼)

おもはし (思はし)

思は、 四ノ一 四ノ二

おほくも 多ク

おほやけ (公)

おもはしき (連体法)

思は、 四ノ三 四ノ四

おほくも 一〇ノ四

おほやけ

おもひ (思ひ)

三ノ三

おもひれたてまつりて 二ノ一

おほかるべし 三ノ三

おほゆ (覚ゆ)

おもひ (思ひ)

おもひきや 三ノ三

おほす (仰す)

おほえけれは

おもひいづ (思出づ)

おもひきむ 一ノ二

おほせらる 一ノ四

おほえ侍 三ノ三

おもひいて給て 一ノ四

おもひけん 一ノ二

おほせられたれば 三ノ三

おほゆる (連体法)

おもひいてられて 九ノ二

おもひて 分ノ二 分ノ四

おほす (思す)

おほゆき (大雪)

おもひかへる (思返る)

おもふ (係結法) 分ノ三

おほし (中止法)

おも (面)

おもひなる (思成る)

おもふ (老ゆ) 三ノ三

おほせくだす (仰下す)

おもし (重し)

おもひみる (思見る)

おもむく (趣く)

おほせごと (仰言)

おもくして

おもひなるに 二ノ三

おもむかん 四ノ一

おほせごと (仰言)

おもくして

おもひつらひて 四ノ二

あや (親)

おほち (大路)

おもきがゆへに

おもふ (思ふ)

あゆ (老ゆ)

おほにでうどの (大二条殿)

おもて (面)

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

大二条殿

おもて

おもはす

老たる

およぶ(及ぶ) 二四〇  
 およばすらむ 二四〇  
 およほし 三〇八  
 をよひ侍らす 三六〇  
 およひ侍す 三六〇  
 およひ侍らぬとも 三六〇  
 お〇〇ひ侍す 二七一  
 おる(降る) 三三〇  
 をりませ給て 三三〇  
 をりて 三三〇  
 おろおろ(疎々) 三三〇  
 おろく 三三〇  
 おろかなり(疎なり) 三三〇  
 おろかなり 三三〇  
 おろかなるかなや 三三〇  
 おろかにして 三三〇  
 おろそかにして 三三〇  
 おむあし(御足) 三三〇

御あし 三三〇  
 おむあそび(御遊) 三三〇  
 御あそび 三三〇  
 おむいのり(御祈) 三三〇  
 御いのり 三三〇  
 おむいへ(御家) 三三〇  
 御家 三三〇  
 おむいみ(御忌) 三三〇  
 御いみ 三三〇  
 おむおとど(御大臣) 三三〇  
 御おとど 三三〇  
 おむか(御賀) 三三〇  
 御賀 三三〇  
 おむこ(御子) 三三〇  
 御子 三三〇  
 おむこ(御心地) 三三〇  
 御心ち 三三〇  
 おむだうしむ(御道心) 三三〇  
 御道心 三三〇  
 おむでし(御弟子) 三三〇

御弟子 三三〇  
 おむとき(御時) 三三〇  
 御時 三三〇  
 おむとし(御年) 三三〇  
 御とし 三三〇  
 おむとも(御伴) 三三〇  
 御とも 三三〇  
 御共 三三〇  
 おむはは(御母) 三三〇  
 御母 三三〇  
 おむほとけ(御仏) 三三〇  
 御仏 三三〇  
 おむまなこ(御眼) 三三〇  
 御眼 三三〇  
 おむまへ(御前) 三三〇  
 御まへ 三三〇  
 おむをち(御叔父) 三三〇  
 御をが 三三〇  
 かい(戒) 三三〇

かいこむじき(皆金色) 三三〇  
 皆金色 三三〇  
 かいしよ(海活) 三三〇  
 海活 三三〇  
 かいふす(開敷す) 三三〇  
 開敷せり 三三〇  
 かう(郷) 三三〇  
 郷 三三〇  
 かうす(号す) 三三〇  
 号 三三〇  
 かうしう(講衆) 三三〇  
 講衆 三三〇  
 かうふく(降伏) 三三〇  
 降伏 三三〇  
 かうま(降魔) 三三〇  
 かうま 三三〇  
 かかる(斯る) 三三〇  
 かかる 三三〇  
 かかる(懸る) 三三〇  
 かりぬ 三三〇  
 かるほび 三三〇  
 かしおふ(かき負ふ) 三三〇

かきおいて 三三〇四

かぎり(限)

かきり 三三〇六

かく(此)

かく 三〇一六 三〇一八 三〇一七

九〇一七 一〇〇三 二〇一 三〇五

一三〇二 一三〇七 一六〇五 一六〇八

一六〇三 三〇一 三〇二 三〇二

三〇二 三〇二 三〇二 三〇二

かく(書く)

かき給ぞかし 三三〇三

かき給へるなり 四〇五

かく(悪く)

かくれは 三六〇七

かけたてまつらざらん 三六〇七

かけたりき 三三〇六

かけつれは 二五三

かけて 三〇一 三〇二 三〇三

三〇六 三〇七 三〇七

かくす(隠す)

かくし(中止法)

かくして 三三〇三

かくや(楽屋)

楽屋 三三〇三

かくる(隠る)

かくれおはしましたし 九〇八

かは 四〇三

かくる 四〇三

かざる(飾る)

かざりて 二五二

かしこまる(畏る)

かしこまり給けるを 三三〇二

かしこまりて 三三〇三

かしら(頭)

かしら 四〇五 四〇一

かす(数)

かす 三〇六 六〇五 三六〇七

かすかなり(幽なり)

かすかにして 三〇一

かすぞふ(数添ふ)

かすぞひて 六〇一

かすぞひにけり 六〇三

かすぞふ(連体法)ハウズ

かぜ(風)

かぜ 一〇六 四〇二 四〇四

かせぎ(株木)

かせぎ 一〇五

かせふせんじゆ(迎葉尊)

音) 三〇七

かせう尊者

かせふ(数ふ)

かせふれは 六〇二

かせへけれは 六〇一

かせへ申 七〇六

かた(方)

かた 二八〇四

かた(方)

かた(肩)

かた 二九〇一〇

かたがた(方々)

かた(方)

かた(敵)

かたき 三三〇四

かたざる(片去る)

かたざりたてまつらで 四〇三

は

かたし(難し)

かたしがこどく 四〇四

かたしとて 一八〇六

かたち(形)

かたち 一〇六 四〇二

かたち 二六〇五

かたとき(片時)

かたとき 一八〇六

かたの(交野)

交野 一三〇一

かたぶく(傾く)

かたぶけて 二〇〇二

かたむ(固む)

かたむ(中止法) 一三〇一

かたらふ(語ふ)

かたらひて 三三〇八

かたる(語る)

かたりたてまつりける	二四六一	かなへ(鼎)	三六六	かはる(変る)	三五〇	かへす(返々)	二四〇三 三九七
かたり侍れ	三七六	かなへ	三六六	かはらむ	三五〇	返々	二四〇三 三九七
かつは(且は)	三二〇一 三二〇一	かならず(必ず)	二七〇	かはりたてまつらん	三五〇	かへりきたる(返衆る)	三五〇
かつは	三二〇一 三二〇一	かならず	二七〇	かはり給	二六〇	かへりきたりて	三五〇
且は	三四五 三四五	かならずしも(必ずしも)	三〇六 三〇五	かはりて	二六〇	かへりきたるへしと	三五〇
かつら(鬘)	一〇五	かならずしも	二七〇	かはる	二六〇	かへる(帰る)	三五〇
かつら	一〇五	かほがさきのくわんおむ	二七〇	かはる	二六〇	かへり(中止法)	四〇
かなし(悲し)	二五〇	(鐘崎観音)	二七〇	かはる	二六〇	かへりけるが	二六〇
かなしかりける	二五〇	かほがさきの観音	二七〇	かはる(連体法)	二六〇	かへり給にける	二六〇
かなしき(連体法)	二五〇	かの(彼の)	二六〇 二五〇	かはれ	二六〇	かへりて	二六〇
かなしき(縁結法)へ*	二五〇	かの	二六〇 二五〇	かはり(連体法)	二六〇	かへりぬ	二六〇
かなしくおほえけは	二五〇	彼	二六〇 二五〇	かはり(連体法)	二六〇	かへる(連体法)	二六〇
かなしく侍	二五〇	かは(河)	二六〇 二五〇	かひ(甲斐)	二六〇	かへるへき	二六〇
かなしむ(悲しむ)	二五〇	かは	二六〇 二五〇	かひ	二六〇	かめ(壘)	二六〇
かなしみ口	二五〇	かは	二六〇 二五〇	かひ	二六〇	かめ	二六〇
かなしむ(連体法)	二五〇	かはさきのろくかくだう	二六〇 二五〇	かふちのくに(河内国)	二六〇	かものしげやす(賀茂)	二六〇
かなしむなり	二五〇	(河崎六角堂)	二六〇 二五〇	河内国	二六〇	重保	二六〇
かなしめる	二五〇	河崎六角堂	二六〇 二五〇	かぶり(冠)	二六〇	賀茂重保	二六〇
	二五〇	かほね(屍)	二六〇 二五〇	かぶり	二六〇	かものなりすけ(賀茂)	二六〇
	二五〇	かはね	二六〇 二五〇	かぶる(冠る)	二六〇	成助	二六〇

賀茂成助

ハヤチ

かむすし

ニミヤ

きえうす(消失す)

一八〇

五〇四 三〇六 三三〇

かやう(斯様)

一五〇二

かんぶ(漢武)

四三〇四

きえうせぬ

后

一五〇五

からす(鳥)

四三〇五

かむやうきう(威陽宮)

五〇二

きく(菊)

四〇四

きしまひ(吉志舞)

七〇四

からす

四三〇六

威陽宮

五〇二

きく(聞く)

四〇四

きすわう(徽宗王)

七〇四

鳥

四三〇七

かんぜん(眼前)

一〇〇二

きかまし

二五〇二

きせいす(祈請す)

五〇七

からめとる(搦取る)

三〇五五

眼口

一〇〇二

き、て

三三〇三 三五〇四

きせいす(祈請す)

五〇七

からめとらむと

三〇五五

かんどり(梶取)

七〇五

きく

五〇二

きせいす(祈請す)

五〇七

からむ(伽藍)

五三〇三

梶取

七〇五

きく(運体法)

四〇七

きたのかた(北の方)

三四〇六

かりようびん(御陵頼)

五三〇三

かんるんのまだいしやう

七〇五

きくは

一九〇四 三九〇六 四〇〇三

きたのかた(北の方)

一五〇八

迎陵頼

ニヤ六

あさみつ(關院左大将朝光)

セウ一

きけは

三二〇三

きたる(来る)

三三〇二

かるかゆゑに(故に)

一〇〇七

關院左大将朝光

セウ一

口くに

三二〇四

きたりて

三三〇二

かるかゆへに

一〇〇七

關院左大将朝光

セウ一

きくす(木草)

三三〇四

きのくに(紀州)

三三〇二

かるし(輕し)

三三〇四

き(木)

四〇七

きこゆ(聞ゆ)

三三〇四

きのくに(紀州)

三三〇二

かるくし

三三〇四

き

四〇七

きこえ侍めり

二六〇七

きたる(来る)

三三〇二

かろむ(輕む)

四〇〇七

きいのくに(紀伊国)

四〇七

きこゆる(運体法)

ハ〇一

きのふ(昨日)

三三〇三

かろむへからす

四〇〇七

↓きのくに

四〇七

きこゆる(運体法)

ハ〇一

きのふ(昨日)

三三〇三

かゑんせう(哥苑抄)

二六〇一 二六〇二

紀伊国

二九〇二

きまき(右)

二六〇二

きば(着婆)

二五〇四

哥苑抄

二六〇一 二六〇二

紀伊国

二九〇二

きまき(右)

二六〇二

きば(着婆)

二五〇四

かむすし(替)

九〇三

きうせん(九泉)

四〇七

きくす

二六〇二

きばだいじん(着婆大臣)

三三〇四

かむすし(替)

九〇三

きうせん(九泉)

四〇七

きくす

二六〇二

きばだいじん(着婆大臣)

三三〇四



きはむ(極む)

きはめたり 三六〇

きびのだいじん(吉備大臣)

吉備大臣

五七〇

きふこどくをん(給孤独)

給孤独

五〇三

きみ(若)

五〇五

二五五 二五五 二五五

きも(肝)

三〇六

きやう(京)

二八〇

京

きやう(凶)

一九三

きやう(行)

四六一

ぎやうきほまつ(行基菩)

藤

行基菩薩 四〇二 四三〇

ぎやうざう(形像)

形像 二六四

ぎやうじや(行者)

行者 二八〇 二八〇

ぎやうず(響す)

響す 二二二 二二二

響す(給)

四三三 四三三

響す(へし)

四三三 四三三

きやうまんす(輕慢す)

輕慢して 四三三 四三三

きやうろん(經論)

經論 二二二 二二二

ぎやくしゆ(送修)

送修 二〇二 二〇二

きゆ(消ゆ)

きえぬさきに 一〇七

きよくせんじ(玉泉寺)

玉泉寺 二七一

きよみづであら(清水寺)

きよみづ(清水寺)

きよみづのきやう(清行)

卿 六〇七

清行卿

きる(著る)

きたらん 四〇一

きたりし 一九〇

きたる 二五三

きをんじ(祇園寺)

祇園寺 二六三

きをんじや(祇園)

精舎 二七二

祇園精舎

祇園精舎 二八二

きむめきら(公章)

公章 六三三

きむえふしふ(金葉集)

金葉集 六三二

きむげん(金言)

金言 二五三

きむだち(公達)

きんたち 三三〇

公達 二〇四 四〇二 四〇二

きむちう(禁中)

禁中 一五三 一五三

きむりんしやうめう(金輪聖王)

金輪聖王 二五三

きむりんしやうめう(金輪聖王)

金輪聖王 二五三

きむりんしやうめう(金輪聖王)

金輪聖王 二五三

き(來)

きたる 二七三

きて 二六六

く(苦)

く 二四七 二五三

く(苦)

く 二四七 二五三

く(苦)

く 二四七 二五三

く(苦)

く 二四七 二五三

く(苦)

く 二四七 二五三

くぎやう(公御)

四〇八

くたす(尙す)

三〇九

くぎやう(苦行)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くぐり(求願)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くげん(苦感)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くじふいち(九十一)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くしゆく(具行)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くしゆきけい(具行)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くす(具す)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くしたてまつり

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くすり(薬)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くせ(救世)

三〇九

くたし(中止法)

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くふ(食ふ)

三〇九

くへい(具平)

三〇九

くへい(具平)

三〇九

くまの(熊野)

三〇九

くまの(熊野)

三〇九

くも(雲)

三〇九

くも(雲)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

くわ(供養)

三〇九

雲より 三三〇  
 雲に 三三〇  
 くらひと(載人) 三三〇  
 載人 三三〇  
 くらゐ(位) 二一四  
 位 二一四  
 くりんかい(苦輪海) 二一四  
 苦輪海 二一四  
 くる 二一四  
 くれ給てまし 三三二  
 くるぞんがつ(俱留孫仏) 二八三  
 俱留孫仏 二八三  
 くるま(車) 四〇六  
 車 四〇六  
 くれなる(紅) 三六四  
 くれなる 三六四  
 くれなひ 五三九  
 くれふたがる(暮塞る) 五三九  
 くれふたかりて 五三九  
 ぐれん(紅蓮) ↓ だいぐ

れん 三〇三  
 紅蓮 三〇三  
 くらがね(鐵) 四〇六  
 鐵 四〇六  
 くろがらす(黒烏) 九三三  
 くろがらす 九三三  
 くろし(黒し) 四〇六  
 黒からす 四〇六  
 くいいにむ(傾姬) 三三三  
 傾姬 三三三  
 くいはい(荒廢) 五〇八  
 荒廢 五〇八  
 くいきよくてんわう(皇極天皇) 五〇八  
 皇極天皇 五〇八  
 くいごうぐうぐ(皇治宮) 五〇八  
 皇治宮 五〇八  
 くいしう(広州) 四〇六  
 広州 四〇六  
 くいうてい(黃帝) 四〇六  
 黃帝 四〇六  
 くいうによ(皇女) 四〇六

皇女 三三三  
 くいはい(荒廢) ↓ くら 三三三  
 わいはい 三三三  
 くいぶつ(空王仏) 三三三  
 空王仏 三三三  
 くいみやう(光明) 三三三  
 光明 三三三  
 くいむ(火焰) 三三三  
 火焰 三三三  
 くいこ(過去) 三三三  
 過去 三三三  
 くいざんのほふわう(花山法皇) 二一四  
 花山法皇 二一四  
 けちやうさむまい(火定三昧) 三三三  
 火しやう三昧 三三三  
 けん(願) 二一四  
 願 二一四  
 けんおむ(觀音) 三三三  
 觀音 三三三  
 けんおむ(觀音) 三三三  
 觀音 三三三

觀音 三三三  
 けんおむるん(觀音院) 三三三  
 觀音院 三三三  
 けんぎ(歡喜) 三三三  
 歡喜 三三三  
 けんしゆ(願主) 三三三  
 願主 三三三  
 けんたいし(卷第四) 一〇一  
 卷第四 一〇一  
 けんんにん(官人) 三三三  
 官人 三三三  
 けんぱく(閑白) 三三三  
 閑白 三三三  
 けんぱくだいじん(閑白左大臣) 一〇一  
 閑白左大臣 一〇一  
 けんへいのほふわう(寬平法皇) 三三三  
 寬平法皇 三三三  
 けんこう(觀) 三三三  
 觀 三三三

くゑえ(帰依)

帰依

くゑえす(帰依)

帰依す

帰依するもの

帰依せむ

くゑす(帰す)

帰し(中止法)

帰し給す

帰す

くゑん(鬼難)

鬼難

くゑのぶてい(建武帝)

建武帝

くゑごむきやう(華嚴経)

華嚴経

くゑしん(化身)

化身

くゑそう(外僧)

外僧

くゑつししふ(月詣集)

月詣集

くゑつちやうわうじやう

(決定往生)

決定往生

くゑらく(化樂)

化樂

くゑんちやう(兼音)

兼音

くゑんい(群類)

群類

け

け(偈)

偈

けうくわん丁(叫喚丁)

叫喚する(遠体法)

けうしゆ(教主)

教主

けうとむびくに(憐曇比尼)

けうとむ比血尼

けま(袈裟)

けま

けふ(今日)

けふ

けぶり(煙)

けかり

煙

けいづ(下劣)

下劣

けむ(剣)

剣

けむぎ(験記)

験記

けむじ(劍聖)

劍聖

けんしゆ(顯宗)

顯宗

けんしゆんもん(顯宗顯宗)

顯宗

けんしゆんもん(顯宗)

(建春門院)

建春門院

建春門院

けんしん(現身)

現身

けんす(現す)

現し給

現して

けんせ(現世)

現世

けんぞくす(還俗す)

還俗したる

還俗

けんぞんしふ(現存集)

現存集

けんたり(現當)

現當

けんろ(洞露)

洞露

こ

こ(へ子) 紅葉 四ウ4 心ある(連体法) 八オ6 二ウ2

こ 恒河河 四ウ1 国土 三オ3 ころろ(心得) 三六ウ1

子 恒河河 四ウ1 国母 九ウ2 心え給ましけれは 三六ウ1

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

子 恒河沙 三オ6 ころらく(極樂) 三五オ8

紅葉

恒河河

恒河河

恒河沙

恒河沙

弘法大師

弘法大師

こかす(焦す)

こかし給

こかはのくわんおむ(粉)

河観音

こかはの観音

こきやう(故郷)

故郷

こき心(古今) 歌集

古今

こく(虚空)

虚空

こくし(国司)

国司

こくど(国土)

国土

こくも(国母)

国母

こくらく(極樂)

極樂

こくわう(国王)

国王

こくわち(五月)

五月

こく(此所)

こく

こころ(心)

心

こころあり(心有り)

心

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

こころあり(心有り)

心ある(連体法)

ころろ(心得)

心え給ましけれは

ころろ(心憂し)

心うく

ころろ(志)

心やし

ころろ(心弱し)

心よはく

ごすむでりのめん(後三)

条院

後三

後三

後三

ごじふのおむか(五十御)

賀

五十御賀

ごしふ(後拾遺) 歌集

後拾遺

ごしやう(後生)

後生

後生

後生

後生

ごしゆじやく(後朱雀)

五道 三六五

位にのほらんこと

九〇七

後朱雀

ことふ(答ふ)

一〇五

かはることなく

九七一

ごしゆじやくのゑん(後朱雀院)

ことへ侍けし

六〇五

心口ゆるすこと

一〇二

あらぬこと

九七四

朱雀院

ことじき(乞食)

四〇四

うてもするることなく

鳴たゆふる、こと

一〇七一

後朱雀院

こと(語)

一〇四

水にぬるることなし

一〇四

かはること

一〇二

ごしらかはのゑん(後白川院)

こと(事)

三三六

しつむことなし

二〇三

ゆるすこと

二〇六

後白川院

こと

一〇五 一〇二 一〇一

うたかひをなすことな

三〇一

たのしみ給こと

二〇八

ごしらふ(游らふ)

こと

二〇三 二〇四 二〇三 二〇四

かれ

三〇一

したかひしこと

三〇四

ごせ(後世)

「の專」

吾朝のこと

悪にはす、ぬること

四〇六

察冒し給へること

二四〇

後世

吾朝のこと

五〇一

しりたまへること

四〇六

とけむこと

二七〇

後世

吾朝のこと

五〇四

人のかすのうすること

五〇四

すつること

二七一

ごぞで(小袖)

長徳元年のこと

七〇七

たゆること

七〇四

いひたかふこと

二七〇

ごぞで

かやうのこと

一五二

まぬかるまじきこと

七〇七

みてたまつること

一九三

ごせもん(後世門)

しほしのこと

一五二

うせ給へること

七〇七

きくこと

一九〇

後口門

衆生のこと

三〇三

はかなくならせ給てと

八〇五

怖意といふことは

一九〇

ごだいきみ(小太君)

ゆかたのことが

三〇三

透なること

八〇五

きくこと

一九〇

小太君

やすきほどのこと

三三〇

まぬかるまじきこと

七〇七

きくこと

一九〇

ごだいさん(五台山)

マと人口こと

三三〇

透なること

八〇五

きくこと

一九〇

五台山

「連体形+事」

七〇七

透なること

八〇五

きくこと

一九〇

ごだう(五道)

「連体形+事」

七〇七

透なること

八〇五

きくこと

一九〇

由 <small>よし</small> こと	一五〇七	ゆむすこと	三五〇八	ことうけ	三〇〇九	このたび <small>(此度)</small>	三〇一〇
往生 <small>おぼ</small> せむこと	三〇〇八	ゆむすこと	三五〇九	ことごとくに <small>(悉くに)</small>	三五一〇	このたび	三五一一
たかふこと	三〇〇九	めてたきこと	三五一一	ことくく <small>(共)</small>	三五一二	このむ <small>(好む)</small>	三五一三
差別 <small>さべ</small> あること	三〇一〇	□ <small>た</small> く侍 <small>し</small> こと	三五一二	ことども <small>(事共)</small>	三五一三	このみて	一〇一四
すくふこと	三〇一一	まぬかる <small>る</small> こと	三五一四	ことども	三五一五	このめ <small>ぼ</small>	一〇一六
うしろめたきこと	三〇一二	の給 <small>たま</small> り	三五一六	ことなり <small>(異なり)</small>	三五一七	こひゆく <small>(乞請)</small>	一〇一八
のぞくこと	三〇一三	おこたること	三五一八	ことにて	三五一九	こひうけたてまつるな	三〇二〇
見たてまつらんこと	三〇一四	やむこと	三五二〇	ことわりなり <small>(理なり)</small>	三五二一	りどぞ	三〇二二
いやすこと	三〇一五	むまれず <small>といふ</small> こと	三五二二	ことほりにて	三五二三	こひゆく <small>(五百)</small>	三〇二四
し	三〇一六	わたる <small>べき</small> こと	三五二四	この <small>(此の)</small>	三五二五	こふ <small>(乞ふ)</small>	三〇二六
いやすこと	三〇一七	たちけること	三五二六	この	三五二七	こひけれは	三〇二八
うたかひをなすこと	三〇一八	あらはすこと	三五二八	この	三五二九	こほり <small>(氷)</small>	三〇三〇
いたてたてまつれること	三〇一九	かへること	三五三〇	この	三五三一	こほり <small>(部)</small>	三〇三二
と	三〇二〇	かへること	三五三二	この	三五三三	こほる <small>(零る)</small>	三〇三四
やめ給こと	三〇二一	このこと	三五三四	この	三五三五	こほれし	三〇三六
いかなることか	三〇二二	「遠体詞 <small>えんたいし</small> 」	三五三六	この	三五三七	こまかなり <small>(細なり)</small>	三〇三八
ふせき給はむことを	三〇二三	このこと	三五三八	この	三五三九	こまかには	三〇四〇
密 <small>ひそ</small> かすこと	三〇二四	こひうけ <small>(言承け)</small>	三五四〇	この	三五四一		三〇四二

こまかに

ナオ2

こいせいあん(後冷泉院)

こゑ(聲)

ナ(然)

三〇七〇

こまかに見ければ

院

こゑ

ナ

三〇七〇

三ウ7

後冷泉院

二ウ6 三ウ7 三ウ1

さいぐうどの(西宮殿)

一五76

こもる(籠る)

こいさかのみこ(惟高親王)

こむじやう(今生)

さいけ(在家)

一五76

こもり(中止法)

惟高の御子

今生

在家

三ウ4

三ウ6

三ウ6

三ウ2 三ウ3 三ウ2

さいこく(在国)

三ウ4

こもり給

ころ(頃)

こむせん(金山)

さいごく(在国)

三ウ8

こもりぬる(籠居る)

ころ

金山

在国

三ウ8

こもりぬる給へりけるに

ころくすん(五六寸)

こむによいしゆ(金如意珠)

さいごく(在国)

三ウ8

三ウ3

五六寸

珠

罪業

四〇ウ1

こもりぬるて

ころす(殺す)

金如意珠

罪業

三ウ3

こよひ(今宵)

ころいしをも

こむれんだい(金蓮台)

さいさむでうのたいしやう(西三条大将)

三ウ3

こよひ

ころし、をも

金蓮台

西三条大将

三ウ7

こらむ(御覧)

ころし給へ

こんりか(建立)

さいしつ(妻室)

三ウ7

こらん

ころす

建立

妻室

三ウ7

こりやう(御蔭)

ころすなど

建立

さいしやう(宰相)

一八75

こりやう

ころも(衣)

こんゑ(近衛)

さいしやう(宰相)

一八75

これ(此)

ころも

近衛

さいしやう(在生)

三ウ7

こい

衣

立

さいしやう(在生)

三ウ7

衣

衣

立

在生

三ウ7

衣

いぬ(五位)

立

さいにん(罪人)

三〇ウ1

五位

五位

立

罪人

三〇ウ1

七ウ6 三ウ7

ナ

三〇ウ1



相人 さいのみりう(奇威王)	三〇三	なきだつ(先立つ)	三〇三	なせふ(誘ふ)	三〇三	なる(去る)	三〇三
奇威王	一〇〇四	なきだつ(連体法)	八〇六	なせはれ	四七四	なること	一〇一四
なう(相)	四〇七	なきら(老ら)	三〇三	なだいじん(左大臣)	三六六	なるほどに(然る程に)	三〇三
なう	四〇七	なくら	三〇三	左大臣	三六六	なるほどに	三〇三
相	三〇一	なく(糸)	三〇三	なだめて(定て)	三六六	なれとも(然れとも)	三〇三
なう(左右)	三〇一	なく	三〇三	定て	三六六	なれば(然れば)	三〇三
左右	三〇一	なく(咲く)	三〇三	なづく(授く)	三六六	なれば	三〇三
なうおうくわしやう(相)	三〇一	なうなほ	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
志和尚	三〇一	なけ(酒)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
志和尚	三〇一	なけ	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
相人	三〇一	なけふ(左脇)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
相人	三〇一	なけ	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
相人	三〇一	なす(射す)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
相人	三〇一	なす	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
草木	三〇一	なす(差す)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
草木	三〇一	なす	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
なうりむじ(雙林寺)	三〇一	なす(刺す)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
雙林寺	三〇一	なしたてまつらんと	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
なかり(盛)	三〇一	なす(座主)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
なかり	三〇一	なす	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
なき(前)	三〇一	なす(座主)	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三
なき	三〇一	なす	三〇三	なづく(給は)	三六六	なれば	三〇三

さむしやく(三尺)

山王

六〇二

三尺

さむゐのちうじやうしば

さむせ(三世)

う(三位中将師房)

三世

三位中将師房

さむづ(三途)

し

さむでうゐん(三糸院)

し(師)

三糸院

師

さむでうゐんいちほむの

みや(三糸院一品宮)

し(死)

三糸院一品宮

さむびく(三毒)

し(衆)

三毒

さむにん(三人)

しうごにん(守護人)

三人

さむのきみ(三君)

しうのぶわう(周武王)

三君

周武王

さむほう(三宝)

しうりほんどく(周梨般)

三宝

詩

三寶

同梨般詩

さんわう(山王)

しかい(四海)

ニヤフ

しかい(死敵)

重信

七七一

死敵

三〇八

しかのみならず

しげる(繁る)

しかのみならず

しけり(中止法)

しかりといへども(然雖)

じごふじとくくわ(自業自得果)

しかりといへども

自業自得果

しかれども(然)

しし(穴)

しかれども

しし(獅子)

しきしすき(色紙流)

しし(獅子)

色紙すき

しし(獅子)

色紙すき

しし(獅子)

色紙すき

しし(獅子)

しく(死苦)

ししきれんぐゑ(四色蓮花)

死苦

四色蓮花

しぐる(時雨)

ししのぞ(獅子座)

しくる(連体法)

師子の座

しげいへのせうしやう

ししん(紫宸)

重家少将

紫宸

しげのぶ(重信)

しす(死す)

しげのぶ

死するゆへに

した(下)

した(下)

した	二九〇一 三〇〇四	したかふ(随ふ) (四段)	七宝	三〇一 六〇三 八〇七	しほ(四府)	三〇一〇	じふろくぶん(十六分)	三〇〇八
したかひし	三〇〇四	したかふ(随ふ) (下二段)	しつだたいし(悉陀太子)	二四〇四	じふあく(十悪)	三〇〇二	じふみせう(拾遺抄)	八〇〇八 三〇〇九 四〇〇一
したかへむがため	三〇〇三	しつむ(泓む) (四段)	しつむ(泓む) (四段)	二〇〇四	じふせん(十善)	二〇〇二	しほむ	四〇〇六
したしむ(親む)	四〇〇八	しづむ(汇む) (下二段)	しづむ(汇む) (下二段)	二〇〇七	十善	二〇〇七	しほめり	四〇〇六
したしめる	四〇〇八	してんゆうじ(四天王寺)	してんゆうじ(四天王寺)	二〇〇二	じふににん(十二人)	二〇〇二	しまんびく(指鬘比丘)	四〇〇五
したつ(為立つ)	三〇〇一	四天王寺	四天王寺	三〇〇七	じふにん(十人)	三〇〇一	しむ(染む)	二〇〇八
したてたるに	九〇〇八	しぬ(死ぬ)	しぬ(死ぬ)	二〇〇七	十人	三〇〇一	しも(霜)	四〇〇五
しちぐわち(七月)	二〇〇一	しぬるぞ	しぬるぞ	八〇〇一	じふねん(十年)	三〇〇七	しも	三〇〇一
しちさい(七歳)	二〇〇一	しのきみ(四君)	しのきみ(四君)	二〇〇五	じふほう(十方)	三〇〇三	しもつみち(下道)	五〇〇六
七歳	二〇〇一	四君	四君	二〇〇五	十方	三〇〇四	じやうえ(淨衣)	二〇〇五
しちじふ(七十)	二〇〇六	しば(四馬)	しば(四馬)	一〇〇一	じふほうせかい(十方世界)	三〇〇四	じやうがく(正覚)	三〇〇一 二〇〇五 三〇〇九 五〇〇二
しちでうどの(七条殿)	九〇〇四	しばし(暫し)	しばし(暫し)	二〇〇二	十方世界	三〇〇四	じやうぐん(將軍)	七〇〇三
七条殿	九〇〇四	しほし	しほし	二〇〇二	じふりんきやう(十輪經)	四〇〇五	じやうけう(正教)	七〇〇三
しちど	二九〇九 五〇〇三 三〇〇一	じひ(慈悲)	じひ(慈悲)	二〇〇四	十輪經	四〇〇五		
しちぶんがいち(七分一)	一〇〇三							

正教

三五〇

しやうにん(聖人)

五六〇

只迦如采

五六〇

沙門

四〇八

しやうご心(莊嚴)

三五〇

聖人

五六〇

しやくおうしゆん(釈迦)

舍利(舍利)

四〇八

莊嚴

三五〇

聖人

五六〇

俊

舍利

二四〇七

じやうさいもんのみん

三五〇

じやうぶつ(成仏)

三六〇

釈迦俊

二五〇七

しやりほつ(舍利弗)

四〇六

(上西門院)

三五〇

成仏

三六〇

しやくそん(釈尊)

舍利弗

四〇六

上西門院

九〇八

じやうぼんゆう(淨飯王)

釈尊

二〇〇六

しやりほつせんじや(舍利弗尊着)

三〇一四〇六

しやうし(生死)

二〇〇

淨飯王

二〇〇二

釈尊

二〇〇八

舍利弗尊着

三〇一四〇六

生死

二〇〇

じやうもくてんし(淨目天子)

只尊

三〇二二〇三

舍利弗尊着

三〇一四〇六

しやうす(生ず)

八〇三

淨目天子

四六〇

じやくてう(寂超)

しゆ(宗)

三〇六

生ずる

四六〇

淨目天子

四六〇

寂超

二六〇八

宗

三〇六

しやうす(請す)

三〇四

しやうもん(聲聞)

四六〇

じやくねん(寂念)

じゆ(呪)

三〇四

請して

三〇四

しやうりやう(清涼)

四六〇

じやくねん(寂念)

呪

三〇四

じやうせつ(淨刹)

三〇四

清涼

四六〇

じやくねん(寂念)

主基

六〇八

淨刹

三〇四

しやうれん(青蓮)

三〇四

しやば(娑婆)

修行

三〇四

じやうど(浄土)

二〇一

青蓮

三〇四

しやば(娑婆)

修行

三〇四

浄土

二〇一

しやか(釈迦)

二〇一

しやべろ(差別)

修行

二〇一

浄土

二〇一

釈迦

二〇一

しやべろ(差別)

修行

二〇一

じやうとうもんのみん

二〇一

しやかにぶらい(釈迦如來)

二〇一

しやみ(沙弥)

修行

二〇一

(上東門院)

二〇一

しやかにぶらい(釈迦如來)

二〇一

しやみ(沙弥)

修行

二〇一

上東門院

二〇一

只迦如采

二〇一

しやもん(沙門)

衆生

二〇一

上東門院

二〇一

只迦如采

二〇一

しやもん(沙門)

衆生

二〇一

三六〇七 三九〇四 三〇三三 三三〇四

衆口シラコ 三六〇四

しゆすシユス（修す）

修して 三〇七

修するは 二〇七

じゆすジユス（誦す）

誦シユは 三五〇

しゆたシユタつ（須達）

須達 三〇二

しゆたシユタつちやうじやへ須

達長者トウチャウジヤ

須達長者 三〇四

じゆぢジユヂす（受持す）

受持ウケモチせんもの 三〇一

しゆつシユツけ（出家）

出家 三〇四 四〇一 二四〇七

一七〇四 一七〇五 一七〇六 一七〇七

しゆつシユツけくどくキドクキやう

（出家功德経）

出家功德経 一五〇六

出家功德経 三〇三

しゆつシユツけす（出家す）

出家したる 一五〇七 二〇一

出家しつる 一九〇二

出家して 一七〇二 一八〇七

出家すれば 一九〇七

出家せざる 一五〇一

出家すへし 一八〇一

しゆつシユツけとんせいすトンセイス（出家遁世す）

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世して 二〇二

出家遁世すへきなり 一七〇三

出家遁世する（蓮体法） 二〇〇 二四〇

出家遁世せむ 三〇四

しゆつシユツしやうほだいしむ

きやうキヤウ（出生菩提心経）

出生菩提心経 三〇三

出生菩提心経 三〇三

しゆつシユツり（出離） 三〇三 三〇六

出離 三〇三 三〇六

しゆびシユビやうヤウ（衆病）

衆病 三〇三

しゆみシユミ（須弥）

須弥 一〇四

しゆみシユミせんセン（須弥山）

須弥山 三〇六

しゆんシユンゑんエンほふしホフシ（俊恵法師）

俊恵法師 一〇七

じよジヨ（自余）

自余 三〇五

しよシヨうウ（証・證）

せうセウ 三〇二

しよシヨうウくク（証空）

証空 三〇三 三〇六

しよシヨうウくクあアじジやヤりリ（証空阿闍梨）

証空阿闍梨 三〇四

しよシヨうウくクわワ（証果）

証果 三〇四

しよシヨうウなナ（証左） 四〇四

せうセウ 三〇三 三〇六

しよシヨうウすス（称す）

称すれば 三〇三

しよシヨうウねネむムすス（称念す）

称念して 三〇三

しよシヨくクしシくクわワしシふフ（続詞花集）

続詞花集 三〇三

しよシヨざザんン（諸山）

諸山 三〇三

しよシヨじジ（諸寺）

諸寺 三〇三

しよシヨしシ（前々）

前々 三〇三

しよシヨせうセウ（諸僧）

諸僧 三〇三

しよシヨぶブつツ（諸仏）

諸仏 三〇三 三〇六

じよジヨうウ（二郎）

二郎 三〇三

二郎 三〇三

二郎 三〇三

二郎 三〇三

しりかわ(膏糠)

膏糠 一〇九二二七

しる(知る)

しる(知る) 三三〇

しうす

しうす 三三〇

しられぬほ

しられぬほ 三三〇

しり(中止法)

しり(中止法) 三〇四

しりたまへる

しりたまへる 三〇四

しりて

しりて 三三〇三〇

しりぬ

しりぬ 三〇四

しる

しる 三三〇四〇

しるども

しるども 三〇四

しるし(印)

しるし(印) 三〇四

しるす(印す)

しるす(印す) 三〇四

しるすに

しるすに 三〇四

しるせり

しるせり 三〇四

しるせる

しるせる 三〇四

しる(四位)

しる(四位) 三〇四

しん(信)

しん(信) 三〇四

信

しん(信) 三〇四

信

しんか(臣家)

臣家

しんこうくわうごう(神功皇后)

神功皇后 六〇二七〇二

しんごん(真言)

真言 三〇四

真言

真言 三〇四

真言

しんじむ(信心)

信心 三〇四

しんす(信す)

信したてまつりて

信して 三〇四

信して 三〇四

信すへし 三〇四

しんせんゑん(神泉苑)

神泉苑 三〇四

神泉苑

しんたん(震旦)

震旦 三〇四

しんたんこく(震旦国)

震旦国 三〇四

しんてうごど(晨朝毎)

晨朝毎 三〇四

しんどうす(振動す)

振動するかごとく

振動するなり

しんのしくわう(秦始皇)

秦始皇 一〇四

しんはいす(神拝す)

神拝して 六〇三

しんら(新羅)

新羅 六〇三

しんらこく(新羅国)

新羅国 六〇三

しんりき(信力)

新羅国 六〇三

新羅国

新羅国

新羅国

信乃

信乃 三〇四

信乃

し(中止法)

し(中止法) 五〇三

しけれは

しけれは 三〇四

し給はぬ

し給はぬ 三〇四

し給そ

し給に 三〇四

し給へる

し給へる 三〇四

したりし

して 五〇三

す 五〇三

すへし 三〇四

すらん 三〇四

する(連体法)

するかごとし 二〇三

するなり 二〇三

するなり 二〇三

するに	二〇一	すく(過ぐ)	三三	すこしの	三三	すむ(住む)	三三
するを	四二〇	すきぬる	九〇	すこしも(少しも)	三三	すみける	三三
すれども	二〇六	すくる(連体法)	三三	すこしも	五二	すむ(澄む)	三三
せで	二五三	すくす(過す)	三三	すすむ(違む)	四〇	すめる日	三三
せん	二一四	すくすほど	七二	すゝめる	四〇	する(滞る)	一〇
せり	七〇三	すくみし(少し)	七二	すだれ(簾)	三三	すり(中止法)	一〇
すいきす(随喜す)		すくなく(中止法)	四三	すたれ	三三	すう(捨り)	三三
随喜し(中止法)	三三	すくふ(取ふ)	四三	すつ(捨つ)	三三	すへ(中止法)	三三
すいぐだりに(随求陀羅尼)	三三	すくひ(中止法)	四三	すつることは	一七	すへたてまつりたらん	三三
随求陀羅尼	三三	すくひ	四三	すて	一〇	す急(不)	三三
すいしやく(垂跡)	二八	すくひ給	三三	すて	一〇	すへ	三三
垂跡	二八	すくふ(連体法)	三三	すてあふ(捨あふ)	二〇	せ	三三
すいへい(衰幣)	四〇	すくる(勝る)	三三	すてあはれさなり	三三	せい(わん)普願	三三
衰幣	四〇	すくると	四三	すてに(既に)	三三	せいす(制す)	三三
すがた(姿)	三三	すくれたり	三三	すてに	三三	せいせしかども	三三
すがた	三三	すけたふのじじう(助任侍従)	三三	すなはち(即ち)	三三	せいめい(清明)	三三
すきゆく(過行く)	四二	助任侍従	三三	すなはち	三三	清明	三三
すきゆく	四二	すこし(少し)	三三	すみやかなり(遠なり)	三三	せいりやく(清涼)	三三
六〇				すみやかに	三三	清涼	三三
				遠なる(連体法)	三三		

せうしやみ(少沙弥)

せむ(攻む)

せんご(前後)

せんじゆだらにきやう

少沙弥

せむる手

前後

一〇六

せうせう(少々)

せめ給ひ

せんごん(善根)

せんぞう(千僧)

せうく

せめ給し

善根

四〇五

少々

せめむ

せんざいしやうきよゆき

せんだら(梅陀羅)

三〇一 四〇三 六〇一

せめりる口

のきやう(善宰相清行御)

梅陀羅

六〇七

せうえいの(照業珠)

せむぬ(施無畏)

善宰相清行御

せんだん(梅檀)

照業珠

施無畏

善宰相清行御

梅檀

二〇六

せうぢよす(消除す)

せめ(攻め)

せんざいどうじ(善財童子)

せんだんかう(梅檀香)

消除しぬ

せめ

善財童子

梅檀香

二〇八

せうぬつ(魚鱗)

せろ(世路)

せんしろひやくにん(千七百)

魚鱗

世路

千七百

せんぬん(千年)

せうぬつ

せん(善)

せんしやうびく(善聖化)

せんぬんまんぬん(千年)

魚鱗

善

善聖化

千年

八二一

せうぬん(少年)

せん(善)

せんしやうびく(善聖化)

少年

善

善聖化

千年

八二一

せす(施す)

せん(善)

せんしやうびく(善聖化)

施す

善

善聖化

せんぬん(千年)

せつほふ(説法)

せんく(前駆)

せんしゆ(千手)

説法

前駆

千手

せむぶく(慈)

せなひ(等中)

せんけんやくわう(善見薬王)

せんじゆだらに(千手陀羅尼)

等中

善見薬王

千手陀羅尼

善明天子

せなひ

善見薬王

千手陀羅尼

善明天子

二〇二



ぜんむるさむざう (善無)

畏三蔵

善無畏三蔵

二二〇

せんりのはま (千里浜)

千里の浜

二二〇

そ

そ (僧)

僧 一五〇 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 四〇 四〇 四〇 四〇

四〇 四〇 四〇 四〇 四〇

四〇 四〇 四〇 四〇

僧

僧 (僧祇)

僧祇

僧 (奏す)

奏して

そののたいし (宋太子)

宋太子

そのひつ (僧弼)

僧弼

そこ (其処)

そこ

そこそはく

そこそはくの

そそく (漉く)

そそくがゆへに

そで (袖)

そで 六〇 六〇 六〇 六〇 六〇

その (其)

その 三〇 三〇 三〇 三〇 三〇

その 七〇 七〇 七〇 七〇 七〇

その 二九 二九 二九 二九 二九

その 三三 三三 三三 三三 三三

そのかうう (楚項羽)

楚項羽

そは (傍)

そは

そむ (染む)

そめたらん

そら (空)

そら 三三〇

そる (判る)

そり (中止法)

それ (其)

それ 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

それゆゑ (其故)

それゆへに

ぞんじやう (存生)

存生 二〇 二〇 二〇 二〇 二〇

ぞんじやうだらに (尊勝)

尊勝陀羅尼 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

尊勝陀羅尼 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

ぞんず (存ず)

存 (連体法)

そんじやう (尊容)

尊容 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (田)

た 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一)

た (第一)

た (第一)

た (第一)

た (田) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

た (第一) 三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

だいじなり (大事なり)

大管会

六五

大地

五九

だいひ (大悲)

三三

たいしなる (連体法)

たいしよくむち (大食無智)

だいぢごく (大地獄)

五九

大口

三三

だいしやう (大聖)

大食無智

四〇

だいなごん (大納言)

四七

だいひく (大悲苦)

三六

だいしやうくわんぜおむ

だいじん (大臣)

四〇

大納言

四七

だいひしむ (大悲心)

三六

ほさつ (大聖觀世音菩薩)

大臣

四三

だいなごんちうぐうのた

だいひしん (大悲心)

三六

だいしやうせそん (大聖世尊)

だいじんら (大臣等)

二二

大納言中宮大夫能信

四九

だいはんじゆ (大悲神呪)

三六

世尊)

たいす (退す)

二二

大納言中宮大夫能信

四九

大悲神呪

三六

だいしやうふどうみやう

たいせし

四一

だいなごんとうぐうのた

だいらむしやうじや (大林精舎)

三五

わう (大聖不動明王)

大少

六二

いふよりむね (大納言春宮大夫頼宗)

大林精舎

三五

だいしやうみやうわう (大聖明王)

だいせうねつ (大焦熱)

三〇

大納言春宮大夫頼宗

四四

だいろくてん (第六天)

五八

大聖明王

たいそ (佞索)

四三

だいに (第二)

四三

だいわう (大王)

三三

だいしやうもんじゆ (大聖文殊)

だいたい (代々)

六〇

たいはだつた (提婆達多)

だいらんけうしゆ (大恩教主)

三三

大聖文殊

代々

六〇

提婆達多

二二

大恩教主

三三

だいじやうゑ (大管会)

大唐

五一

般若經

三三

だう (堂)

三三

堂ドウ 三才ミライ 五才イツモ 三才ミライ

だう (道)

道ドウ 三才ミライ

だうしむ (道心)

道心ドウシン 一才イチサイ 一才イチサイ

一才イチサイ 三才ミライ 三才ミライ

三才ミライ 一才イチサイ 三才ミライ

道心ドウシン 一才イチサイ 三才ミライ

道心ドウシン 一才イチサイ 三才ミライ

たうど (唐土)

唐土トウト 四才シサイ

だうによ (道如)

道如ドウニヨ 三才ミライ

たうりてん (初利天)

初利天シュリテン 三才ミライ

たかあきらめたいしやう

高明大将カウメイダイサウ 三才ミライ

(高明大将)

高明大将カウメイダイサウ 三才ミライ

たかがり (鷹狩)

たかがりタカガリ 三才ミライ

たかし (高し)

たかしタカシ 二才ニサイ

たかう 二才ニサイ

高カウ (連体法) 三才ミライ

たがふ (煙ふ)

たがふタガフ 三才ミライ

たかふ (連体法) 三才ミライ

たかまつどののうへ (高松殿上)

高松殿上カウマツドノノウヘ 三才ミライ

高松殿うへ 三才ミライ

たかまつのみん (高松院)

高松院カウマツノミン 三才ミライ

たかみつのせうしやう (高光少将)

高光少将カウミツノセウシヤウ 三才ミライ

高カウ 三才ミライ

たから (宝)

宝タカラ 三才ミライ

たぎぐち (菴口)

菴口タギグチ 三才ミライ

たく (焼く)

たくタク 三才ミライ

たしかなり (礎なり)

たしかなりタシカナリ 三才ミライ

たしかの往生タシカノウシヤウ 三才ミライ

たしやう (多住)

多住タシヤウ 三才ミライ

三才ミライ

たすかる (助る)

たすかり給へり 三才ミライ

たすく (助く)

たすけ (中止法) 三才ミライ

ただ (唯)

た、 一才イチサイ 一才イチサイ 四才シサイ

五才イツモ 三才ミライ 三才ミライ 四才シサイ

四才シサイ

ただし (但し)

た、し 三才ミライ

たはなのよしとし (橋能俊)

橋能俊タハナノヨシトシ 三才ミライ

たちまち (忽に)

たちまちに 三才ミライ

たちまちに

たつ (立つ) (四段)

たちける 三才ミライ

たちたまへる 三才ミライ

たつと 三才ミライ

たつやうに 三才ミライ

たつたる 三才ミライ

たつ (立つ) (下二段)

三才ミライ

たて、 三才ミライ

たづぬ (尋ぬ)

たつぬれば 三才ミライ

たてまつる (奉る)

たてまつりしを 三才ミライ

たてまつりて 三才ミライ

たてまつる (奉る) (補助動詞)

かけたてまつらざらむ 三才ミライ

かたざりたてまつらで 三才ミライ

は 三才ミライ

見たてまつらん 三才ミライ

かはりたてまつらん 三才ミライ

ぞしたてまつらん 三才ミライ

見たてまつり (中止法)

かたりたてまつりける 三才ミライ

とみたてまつりければ 三才ミライ

すへたてまつりたらん  
三才二

くしたてまつりて  
三才一

はしめたてまつりて  
六才八

信したてまつりて  
三才一  
三才一

たのみたてまつりて  
三才六

おもはれたてまつりて  
二才七

あふきたてまつりて  
三才九

あてなひたてまつりて  
三才九

つくりたてまつり待けるに  
五才四

見たてまつる(運体法)  
五才三

こひうけたてまつるな  
三才二  
三才四  
三才六  
三才七

念したてまつるべきなり  
三才二

たのみたてまつるべき  
三才九

おくられたてまつるべきなり  
三才九

みたてまつるもの  
三才五

いたきたてまつる物  
三才二

いたてたてまつれる  
三才七

みたてまつれる  
三才九

あひた  
三才八

たとひ(喩ひ)  
三才五

たとへば(喩は)  
三才六  
三才七  
三才八

たとへば  
三才二  
三才四  
三才六  
三才七

たのし(樂し)  
三才三

たのし(樂し)  
三才三

たのしくして  
三才五

たのし(樂し)  
三才三

たのしみ(樂しみ)  
三才四

たのしみ給  
三才八

たのみ(頼み)  
三才七

たのみ(頼む)  
三才七

たのみたてまつりて  
三才六

たのみたてまつるべき  
三才九

たのみて  
三才七

たのもし(頼もし)  
三才三

たのもしくぞ  
三才一

たのもしくぞ  
三才三

たのもしきかなや  
三才三

たのしくぞ  
三才九

たはぶれ(戯)  
三才三

たわふれ  
三才三

たび(旅)  
三才七

たび(度)  
三才五

たひ  
三才四

たひ  
三才五

たひ  
三才四

たひ  
三才七

たひ  
三才八

たひ  
三才九

たひ  
三才七

たひ  
三才八

たひ  
三才九

たひ  
三才三

たひ  
三才二

たひ  
三才一

たひ  
三才二

たひ  
三才三

たひ  
三才四

たひ  
三才五

たふさ 二四一  
 たふとぞ(尊さ) 二四二  
 たうとぞ 二四三  
 たふとし(尊し) 二四四  
 たふとき(連体法) 二四五  
 貴<sup>タキ</sup>には 二四六  
 たへなり(妙なり) 二四七  
 妙にして 二四八  
 たま(玉) 二四九  
 たま 二五〇  
 五 二五一  
 たましひ(魂) 二五二  
 たましひ 二五三  
 たま<sup>タマ</sup> 二五四  
 たま<sup>タマ</sup> 二五五  
 たま<sup>タマ</sup> 二五六  
 たま<sup>タマ</sup> 二五七  
 たま<sup>タマ</sup> 二五八  
 たま<sup>タマ</sup> 二五九  
 たま<sup>タマ</sup> 二六〇

いてたまはさりせば 二六二  
 いて給はさりしか 二六三  
 よろこひ給はず 二六四  
 うらみ給はず 二六五  
 うとみ給はず 二六六  
 にくみ給はず 二六七  
 うやまひ給はず 二六八  
 あさむぎ給はず 二六九  
 せうさもし給はぬぞ 二七〇  
 さつけ給はず 二七一  
 ふせぎ給はむことを 二七二  
 やとりたまひしより 二七三  
 正覚<sup>マカサ</sup>なりたまひて 二七四  
 射<sup>ヤ</sup>られ給ひ(中止法) 二七五  
 まぬかれ給ひ(中止法) 二七六

かくそよみ給ひける 二七九  
 解<sup>トク</sup>し給き 二八〇  
 いて給き 二八一  
 せめ給けり 二八二  
 もとめ給けり 二八三  
 かくそよみ給ける 二八四  
 よみ給ける 二八五  
 なり給けるころ 二八六  
 むかひ給ける時<sup>トキ</sup> 二八七  
 なき給けるを 二八八  
 かしこまり給けるを 二八九  
 し給けれども 二九〇  
 いて給けれども 二九一  
 とひ給ければ 二九二  
 見給ければ 二九三  
 いら給ければ 二九四  
 とぞうせ給ければ 二九五  
 みちひき給けむ 二九六

せめ給し時<sup>トキ</sup> 二九七  
 とき給し時<sup>トキ</sup> 二九八  
 のりとき給し時<sup>トキ</sup> 二九九  
 うつり給しゆふへ 三〇〇  
 おこし給しをば 三〇一  
 あきみち給しをり 三〇二  
 いて給たる時<sup>トキ</sup> 三〇三  
 ほめ給て 三〇四  
 うちとり給て 三〇五  
 おもひいり給て 三〇六  
 まいり給て 三〇七  
 ねいり給て 三〇八  
 のほり給て 三〇九  
 みひはなち給て 三一〇  
 をりせ給て 三一一  
 ことうけ口給てき 三一二  
 つくりてくれ給てき 三一三  
 うせせ給にき 三一四

うせ給にけり	七ウ	おとし給	三〇ウ	ほうせんとし給に	四ウ	ころし給へ	三ウ
なり給にける	二五ウ	なため給	三〇ウ	いて給にあらす	四ウ	え給へり	三ウ
かへり給にけるのち	六ウ	おち給	三〇ウ	まうけ給べきなり	四ウ	すかり給へりける	四ウ
崩 <sup>ホツ</sup> 給ぬ	七ウ	こかし給	三〇ウ	いとなみ給べきなり	三ウ	こもりぬ給へりけるに	三ウ
はらみ給ぬ	七ウ	とふうひ給	三〇ウ	のり給べきなり	二ウ	あひ給へりけるにも	四ウ
うせ給ぬ	七ウ	現し給	三〇ウ	もとのめ給べきなり	二ウ	ふし給へりけるを	四ウ
いのり給ふ	六ウ	響 <sup>ヒョウ</sup> し給	四ウ	いのり給べきなり	二ウ	あつまり給へりし	三ウ
よろこび給	二ウ	はかはくならせ給(連体法)	九ウ	ねかひ給べきなり	三ウ	しりたまへる	五ウ
こもり給	二ウ	体法)	九ウ	いて給べし	二ウ	たちたまへる	五ウ
みちみぎ給	二ウ	たのしみ給(連体法)	二ウ	いのり給べし	二ウ	としをい給へる	七ウ
はくくみ給	二ウ	いて給(連体法)	二ウ	いのり給べし	二ウ	うせ給へる	七ウ
見給	二ウ	いのりやめ給(連体法)	二ウ	はり給べし	二ウ	繁昌 <sup>ハヤシヤウ</sup> し給へる	四ウ
のそぎ給	三ウ	かくはし給ぞ	三ウ	見給べし	三ウ	心うこぎ給へる	四ウ
いやし給	三ウ	なけき給ぞ	三ウ	え心え給まじければ	三ウ	はらひる給へる	三ウ
すくみ給	三ウ	かぎ給ぞかし	三ウ			し給へるな	三ウ
かはり給	三ウ	をかみ給とこそ	三ウ			したまへるなめりとして	三ウ
あら口し給	三ウ	いて給とも	三ウ				
くはれ給	三ウ	あかみ給なり	三ウ				
あはせ給	三ウ	のせ給なり	三ウ				
いられ給	三ウ	響 <sup>ヒョウ</sup> し給なり	三ウ				
いのり給	三ウ	あそひ給に	三ウ				

かぎ給へるなり 四〇  
修行し給 一〇  
たむのみね(多武峯) 一〇  
多武峯 一〇

ため(為) 一〇  
衆生のため 二〇  
「ためなり」 二〇

1 連体形+ためなり  
もとめむためなり 四〇

2 ためなり  
われらがためなり 三〇

したかへむがためなり 三〇

「ために」  
1 ために 三〇  
ふせかんがために 三〇

ほめられんがために 二〇

道如がためには 三〇  
王氏がためには 三〇

2 のために 五〇  
徽宗王のために 五〇  
ともからのために 二〇

死のために 二〇  
たもつ(保つ) 二〇  
たもち(中止法) 四〇  
たやすし(た易し) 三〇

たやすく 三〇  
たゆ(絶ゆ) 三〇  
たえて 五〇  
たゆる(連体法) 七〇

たらう(太郎) 四〇  
太郎 四〇

たれ(誰) 三〇  
たれ 三〇

たんどのかみためただあ  
そむ(丹後守為忠朝臣)  
丹後守為忠朝臣 二〇

たんどくくに(丹後国) 六〇  
たのくに 六〇  
たんじやう(誕生) 二〇  
誕生 二〇  
誕生 二〇

ち 二〇  
ち(血) 二〇

ち(乳) 二〇  
ち 二〇  
ち 二〇  
ち(地) 五〇  
地 五〇

ち(瘰) 三〇  
ちういん(仲胤) 三〇  
仲胤 三〇

ちうう(中有) 三〇  
中有 三〇  
ちうざい(重罪) 五〇  
重罪 五〇

ちうすいほうしゆ(住水宝珠) 二〇  
住水宝珠 二〇

ちうだう(中堂) 二〇  
中堂 二〇  
ちうちう(重々) 二〇  
重々 二〇

ちうなごんよしちか(中納言義懐) 二〇  
中納言義懐 二〇  
ちうびやう(重病) 三〇  
重病 三〇

ちうりふ(住侶) 三〇  
住侶 三〇  
ちかい(持戒) 三〇  
持戒 三〇

ちかし(返し) 三〇  
ちかうは 三〇  
ちかき(連体法) 三〇  
ちかく 三〇

ちかづく(近付く) 三〇  
ちかつき(中止法) 二〇

二〇

ちから (カ)

ちから

三二四

カ

三二四

カ

三二四

ちぎり (契)

ちぎり

三二四

ちこう (智興)

智興

三二四

智興

三二四

ちごく (地獄)

地獄

三二四

地獄

三二四

ちざう (地蔵)

地蔵

三二四

地蔵

三二四

地蔵

三二四

ちざうかう (地蔵講)

地蔵講

三二四

ちざう (地蔵等)

地蔵等

三二四

ちざうぼさつ (地蔵菩薩)

地蔵菩薩

三二四

地蔵菩薩

三二四

三二四

ちしや (持者)

持者

三二四

ちしやうだいし (智証大

師)

智証大師

三二四

ちしん (智臣)

智臣

三二四

ちす (治す)

治す

三二四

ちし (中止法)

治せぬ

三二四

ちち (父)

父

三二四

ち (五字)

ち

三二四

ちひさし (小し)

ちひさし

三二四

ちぬさし

ちぬさし

三二四

ちやう (定)

申し、定

三二四

ちやうあんくう (長安宮)

長安宮

三二四

ちやうごふ (定業)

定業

三二四

定業

三二四

ちやうじや (長者)

長者

三二四

ちやうだい (長大)

長大

三二四

ちやうとくぐわんねん (長徳元年)

長徳元年

三二四

ちやうもん (聴聞)

聴聞

三二四

ちやうしやく (重職)

重職

三二四

ちやくせ (濁世)

濁世

三二四

ちらす (散す)

ちらして

三二四

ちりつもる (散積る)

ちりつもる

三二四

ちりつもる (連体法)

ちりつもる

三二四

ちる (散る)

ちり (中止法)

ちる (散る)

三二四

智恵

三二四

ちん (陣)

陣

三二四

陣

三二四

ちんせい (鎮西)

鎮西

三二四

鎮西

三二四

ついでん (追善)

追善

三二四

つか (塚)

つか

三二四

塚

三二四

つかさ (司)

つかさ

三二四

つかはす (遣す)

つかはしけるに

三二四

つかひ (使)

つかひ

三二四



つかまつりびと(仕人)	四〇五	つかまつり人	四〇六	つかまつる(仕る)	四〇七	つかまつりけるが	一〇七
つかむ(把む)	四〇八	つかみて	四〇九	つくる(作る)	四一〇	つかむらりけるを	四一一
つき(月)	四一〇	つくら	四一一	つくら	四一二	つくりたてまつり侍けるに	四一三
つき(次)	四一〇	つくりて	四一四	つひに(終に)	四一五	つひに	四一六
つきころす(突殺す)	四一五	つくるに	四一七	つぶし(隙)	四一八	つみ	四一九
つきころして	四一六	つくりは	四一八	つみ(罪)	四二〇	つみ	四二一
つき(次々)	四一七	つく口せて	四一九	つみ(横心)	四二二	つみて	四二三
つき(突く)	四一八	つたへて	四二〇	つもる(積る)	四二四	つもりにけ口	四二五
つきけいば	四一九	つち	四二一	つもるほとに	四二六	てん(天)	四二七
つき(着く)	四二〇	つちみかどのうだいじん	四二二	つむ(積む)	四二三	てらす(照す)	四二四
つき(付く)	四二一	土御門右大臣	四二三	つむ(横心)	四二四	てらす(照す)	四二五
つきたり	四二二	土御門右大臣	四二四	つむ(積る)	四二五	てらす(照す)	四二六
つく(盡く)	四二三	つしむ(懐む)	四二五	つむ(積る)	四二六	てらす(照す)	四二七

て

天 二五〇

てんか(天下)

天下 四〇八

てんけうだいし(任教大

師) 六〇九

伝教大師 二六〇

大 師 二六〇

てんす(駈す)

てむじ(中止法) 二六〇

てんだいさん(天台山)

天台山 二六一

天台山 二六〇

てんじやう(天上)

天上 二六一

てんぢく(天竺)

天竺 二六〇

てんちてんけう(天智天

皇) 二六〇

天智天皇 二六〇

てんちやう(天聰)

天聰 二六〇

天聰 二六〇

てんどうぼう(天童鉢)

天童鉢 二六〇

てんぷ(田夫)

田夫 二六〇

てんらう(天老)

天老 二六〇

と

とうぐう(春宮)

春宮 二六〇

どうじ(童子)

童子 二六〇

とうだいじせむりむ(東

大寺禪林) 二六〇

とういす(渡海す)

渡海す 二六〇

とかく(副詞)

とかく 二六〇

とき(時)

そのときに 二六〇

からめとらむとせんと

き 二六〇

水いててふか、りける

とき 二六〇

物をならふ時は

在国の時 二六〇

神功皇后のせめ給し時

仏祇園精舎におはしま

し、時 二六〇

仏よにいて給たる時

譬喩経とき給し時

長大の時にいたるまで

のりとき給し時

時の名師時明を諸して

命終の時

わかきみの時

十善の位にありし時は

さらばその時 二六〇

ときつう(尚行)

口行 二六〇

ときに(時に)

ときに(時)ありて

于時 二六〇

とき(ひと)(時人)

時人 二六〇

ときのぶのせうしやう

(時叙少將)

時叙少將 二六〇

ときは(常盤)(人名)

ときは 二六〇

とく(説く)

とく(中止法)

とき給し 二六〇

とけり 二六〇

説り 二六〇

とく(徳)

徳 二六〇

とぐ(透ぐ)

三三三三三六六六六六

いはねば

富(連体法)

二二二

とくる(連体法)

とし(疾し)

とはれりける

ともかう(輩)

二二二

とけず

とく

とひければ

ともから

三三三

とけすして

としおゆ(年老ゆ)

とひければ

ともし(乏し)

三三三

とけむ

としない

とひし

ともし

三三三

とくちう(毒虫)

としない給へる

とひたて

ともしからす

六六六

毒虫

としごろ(年来)

とひ給ければ

くもしく(中止法)

三三三

ところ(所)

としこ

とぶらぶ(訪ふ)

とらふ(觸ふ)

三三三

ありしところ

とせつ(兎幸)

とぶらひ給

とらへつ

二二二

千里の浜といふ所

都幸

とふらへば

とらへられて

二二二

小野といふ所

とどのふ(整ふ)

とほぞ(疚)

とらへられぬ(き)

二二二

ひねといふ所

とどまりがたし(止難し)

とほぞ

とらへられぬ(き)

二二二

ところ(所)(形式名詞)

と、まりかたし

とほる(通る)

とらへからむ(痛む)

二二二

かくまへる所

とどむ(止む)

とらへからめて

とらへからめて

三三三

ならふ所

と、め(中止法)

とまりはつ(止果つ)

とら(驚)

三三三

ならふ所

との(殿)

とまりはつ(止果つ)

とら

四四四

どけん(土産)

との

とまる(泊る)

とら

四四四

土産

とのぼら(殿原)

とまりにけり

とらかひの(多ん)(傳養院)

三三三

とし(歳)

とどのふ(訪ふ)

とむ(當む)

とらはた(傳院)

三三三

とし 五オハ六オハ七オハ

とどのふ(訪ふ)

とめりし

とらはた(傳院)

三三三

とりはた 三三〇

とりべやまへ高部山 三三〇

とりへつゝ 三三〇

とる(取る) 三三〇

とらすへき 三三〇

とらせけるが 三三〇

とらせたり 三三〇

とらせたりければ 三三〇

とらせてけり 三三〇

とられて 三三〇

とり(中止法) 三三〇

とりたりと 三三〇

とりて 三三〇

日とりて 三三〇

どろ(泥) 三三〇

どろ 三三〇

とん(食) 三三〇

とん(食) 三三〇

とんごん(銚根) 三三〇

銚根 三三〇

な(名)

な(名) 五二五

名 五二五

名 五二五

ないきのにぶだうやうた 五二五

内(内記入道保胤) 五二五

内記入道保胤 五二五

ないし(内侍) 五二五

内侍 五二五

ないだいにじん(内大臣) 五二五

内大臣 五二五

ないだいにじんのまだいし 五二五

やうのりみうどの(内大臣左大将教道殿) 五二五

内大臣左大将教道殿 五二五

ないわうくわこ(乃往過) 五二五

乃往過 五二五

ないゐん(内院) 五二五

乃往過 五二五

内院 五二五

なうらたす(惱乱す) 五二五

惱乱すこと 五二五

なか(中) 五二五

中 五二五

中 五二五

中 五二五

中 五二五

中 五二五

中 五二五

なかし(長し) 五二五

なかく 五二五

なか、るへし 五二五

なかす(流す) 五二五

なかして 五二五

なかとのかみためつね 五二五

(長門守為経) 五二五

長門守為経 五二五

なかむ(眺む) 五二五

なかむるもの 五二五

なほめし 五二五

なきたはぶる(眺載る) 五二五

眺たわぶる、こと 五二五

なかむるもの 四〇三

なほめし 四〇三

なきたはぶる(眺載る) 四〇三

眺たわぶる、こと 四〇三

なきある(眺居る) 四〇三

なきあるたりければ 四〇三

なく(泣く) 四〇三

なき給けるを 四〇三

なく(連体形) 四〇三

なくなく(泣く泣く) 四〇三

なくく 四〇三

なげく(嘆く) 四〇三

なげき(中止法) 四〇三

なげき 四〇三

なげき 四〇三

なげき給そ 四〇三

なげきて 四〇三

なし(無し) 四〇三

なからむ 四〇三

なかりき 二一〇三ニヤ

なじ 一〇八

なつけて 一〇三

なもあみだぶつ(南无阿弥陀佛)

なかりけり 二一〇三ニヤ

なつく(名付く)

なつく(名付く) 二万郷(なうく)

なもあみだぶつ

なかりけれは 三三〇

なにかし(懐し)

なに(何)

なむ(懐し)

なかれ 一〇二

なにかし(懐し)

なに(何)

なやめる

な(連体法)

な(連体法)

なに(何)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

な(連体法)

な(連体法)

な(連体法)

ならひ(懐し)

三信申將 一四〇

なりひらのろうじやう

(兼平口將)

兼平中將 一三九

なる(成る)

ならまるが 一三九

ならしと 一三九

ならす 一三九

ならせ給 一三九

ならんと 一三九

ならむと 一三九

なり(甲止法) 一三九

二〇〇

なり給ける 一三九

なりたまひて 一三九

なり給にける 一三九

なり給へし 一三九

なりたり 一三九

なりて 一三九

二〇〇

二〇〇

二〇〇

三〇一

なりにけり 聖三〇

なりにけるかな 八〇一

なりにしかな 九〇六

なりぬ 三〇一

四〇四

なり侍にき 九〇四

なる 三〇二

なるべし 三〇六

なれり 六〇三

なん(難) 六〇三

難 六〇三

難 四〇一

なむかい(南海) 六〇一

南海 六〇一

なんぞ(何ぞ) 八〇五

何 八〇五

なむぢ(汝) 三〇三

汝 三〇三

なむでん(南殿) 七〇四

南殿 七〇四

なむと(南都) 七〇四

南都 一〇一

に

にぎのいへ(日記家)

日記家 七〇一

にぎる(遷る)

にきりて 三〇三

にきる 三〇三

にくむ(憎む)

にくみ給はず 三〇六

にしさかもと(西坂本) 三〇三

西坂本 三〇三

にしのごぜん(西御前) 六〇一

西御前 六〇一

にじふご(二十五) 三〇三

二十五 三〇三

にじふご(二十五有) 三〇三

二十五有 三〇三

にじふご(二十艘) 六〇四

二十艘 六〇四

にせ(二世) 七〇六

二世 三〇六

にだい(二代) 三〇一

二代 三〇一

にだん(二段) 三〇三

二段 三〇三

にでうおほみや(二条大宮) 三〇三

二条大宮 三〇三

にでうつつみ(二条堤) 三〇三

二条つみ 三〇三

にでうめん(二条院) 三〇三

二条院 三〇三

ににん(二人) 三〇三

二人 三〇三

にほ(庭) 三〇三

にゆ 三〇三

にほひ(匂) 三〇三

にほひ 三〇三

にほんき(日本紀) 三〇六

日本記 三〇六

にまん(二万) 三〇六

二万 ニマン 五〇八六〇三三〇  
 にまんかう(二万郷)  
 二万郷 ニマンキョウ 五〇七  
 にまん(二万人)  
 二万人 ニマンニン 五〇七六〇一  
 によご(女御)  
 女御 メミコ 五〇六  
 によぼう(女房)  
 女房 メボウ 五〇五  
 によらい(如来)  
 如来 ニライ 五〇四  
 如来 ニライ 五〇二  
 にく(似る)  
 にたり ニタリ 一〇三三四五  
 にむ(仕)  
 仕 シ 六〇二  
 にんぎよのあぶら(人身の油)  
 人魚油 ニニギヨウ 六〇一  
 にんげん(人間)  
 人間 ニニゲン 三〇六  
 にんじん(人身)

人身 ニニジン 四〇一  
 にんにく(忍辱)  
 忍辱 ニニク 三〇五  
 にんみん(人民)  
 人民 ニニミン 三〇六  
 にんやくゆうじ(人薬王子)  
 人薬王子 ニニヤクウジ 三〇三  
 ぬか(額)  
 ぬか ヌカ 三〇三  
 ぬか(主)  
 ぬし ヌシ 三〇二  
 ぬすむ(盗む)  
 ぬすむ ヌスム 三〇一  
 ぬすむ(連体法)  
 ぬひ(奴婢)  
 ぬひ ヌヒ 二〇五  
 奴婢 ヌヒ 二〇四  
 ぬひくくむ(縫包む)  
 ぬひくくむ ヌヒククム 二〇三  
 ぬひくくむたりけるに

ぬる(濡る)  
 ぬる ヌル 四〇二  
 ぬるる(連体法)  
 ぬ(音)  
 ぬ ヌ 二〇二  
 ぬ(根)  
 ぬ ヌ 二〇一  
 ぬ(根)  
 ぬ ヌ 一〇四  
 ぬいる(寝入る)  
 ぬ ヌ 一〇三  
 ぬいり給て  
 ぬ ヌ 一〇二  
 ぬがはくば(願ほ)  
 ぬ ヌ 一〇一  
 ぬがはくば  
 ぬ ヌ 一〇〇  
 ぬがひ(願ふ)  
 ぬ ヌ 九〇  
 ぬがはむもの  
 ぬ ヌ 八〇  
 ぬがはん人  
 ぬ ヌ 七〇  
 ぬがひ(中止法)  
 ぬ ヌ 六〇  
 ぬがひ給へきなり  
 ぬ ヌ 五〇  
 ぬがひ  
 ぬ ヌ 四〇  
 ぬがみ(鼠)

ぬすみ ヌスミ 三〇七  
 ぬはん(涅槃)  
 涅槃 ヌハン 三〇六  
 ぬはんきやう(涅槃経)  
 涅槃経 ヌハンキヤウ 三〇五  
 ぬむごろなり(想なり)  
 ぬ ヌ 三〇四  
 ぬんころに  
 ぬ ヌ 三〇三  
 ぬむす(念す)  
 念 ヌ 三〇二  
 念したてまつる  
 念すれば  
 念 ヌ 三〇一  
 ぬんらい(年来)  
 年来 ヌンライ 三〇〇  
 ぬ ヌ 二〇一  
 の(野)  
 野 ノ 四〇三  
 のこす(残す)  
 の ノ 四〇二  
 のこして  
 の ノ 四〇一  
 のこりある(残り居る)

のこりゑたりけるに

三三〇

のこる(残る)

のこり

のす(奏す)

のせ給なり

のそく(条く)

のそく給

のそく(運体法)

のそみ(望み)

のそむ(望む)

のそみて

のそめども

のたまはく

のたまはく

の給はく

のたまふ(宣ふ)

の給ける

の給けるに

の給けるに

の給けるに

の給けるは

三三〇

の給けれ

三三〇

の給しかは

三三〇

の給て

三三〇

の給(運体法)

三三〇

の給せ

三三〇

の給そかし

三三〇

の給は

三三〇

の給やう

三三〇

の給へり

三三〇

のう(後)

三三〇

のぶ(述ぶ)

のぶたし

のぶる

のぶて

のぼる(登る)

のぼらぬは

のぼらんこは

のほり給て

のほりたりけるに

のほりて

のほりぬ

のほりぬ

のほり(法)

のほり

のほりみち(教道)

のほり

のほり(来る)

のほり給へきなり

のほりて

のほり

のほり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

のぼり

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

二二二



はくろち(白鷺池)

白鷺池 五オキ

はくち(白鷺)

白鷺 四オキ 四オキ 四オキ 四オキ

はこぶ(運ぶ)

はこぶ(連体法)

はこぶ(連体法) 六オキ

はし(端)

はし 四オキ

はしかくゑ(婆師迦花)

はしか花 二オキ

はじめ(初る)

はじめ 一オキ

はじむ(始む)

はじめたてまつりて

はじめて 三オキ 三オキ

はじめて 七オキ 二オキ

はじめ(初)

はじめ 一オキ

はしめ 三オキ 三オキ

法花経六巻のはじりも

はじめて(初て)

はじめて 三オキ

はしめ

はしりさわぐ(走駭)

はしりさわぐ(連体法)

はだへ(膚)

はたへ 三オキ

はちじふ(八十)

はち 一オキ 四オキ

はちじゆん(八旬)

八旬 三オキ

はちす(蓮)

はちす 三オキ

はちん(八人)

八人 三オキ

はちまんしせん(八万四千)

八万四千 三オキ

はちわうじ(八王子)

八王子 三オキ

はつ(果つ)

はつ(果つ) 三オキ

はつるまゝに

はな(花)

はな 六オキ

はな(放つ)

はなちて 三オキ

はなると(離る)

はなるとなり 二オキ

はなれたるは

はなれて 五オキ

はなれがたし(離難し)

はなれかたし 六オキ

はは(母)

はは 三オキ 三オキ

はは(母)

はは(母) 三オキ 三オキ

はべり(侍り)

はべり(侍り) 八オキ

侍らぬのを

侍らぬ 四オキ

侍ける

侍らぬ 六オキ 三オキ

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

侍り

三六二

□侍なり

申侍べし

三六三

四六

いだし侍べし

きこえ侍めり

三六四

やさしくこそおほえ侍

三六五

(て侍り)

まいり給て侍けるに

三六六

つくりたてまつりて侍

けるに

ねいり給て侍ければ

三六七

いろにてぞ侍し

申べきにて侍

どろきでぞ侍べき

三六八

ことほりにぞ侍べき

三六九

はめ給て侍めり

すゝめることにてぞ侍

める

申て侍める

むとめてこそ侍めれ

ゑられて侍めれ

まぬかるまじきことに

て侍ものを

(形容詞・形容動詞連用

形+侍り)

おほく侍ける

あさましく侍し

たのもしくぞ侍

ありかたくぞ侍

たのもしくぞ侍べき

おほく侍めり

あうはにぞ侍める

三七〇

はのもしくぞ侍める

めてたくぞ侍める

かなしく侍ること

結び

はやし(早し)

はやく

はら(腹)

はら

はらふ(拂ふ)

はらはせて

はらむ(孕む)

はらみ給ぬ

はらもん(婆羅門)

波羅門

はる(春)

はる

はるか(遠なり)

はるかに

ばんき(万機)

ばんじやうす(繁昌す)

ばんちやう(番長)

ばんにや(般若)

ばんぶつ(万物)

万機

ばんじやうす(繁昌す)

ばんちやう(番長)

ばんにや(般若)

ばんぶつ(万物)

ひ(日)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひ(火)

ひかり(老)	二一〇九	毗沙離國	五〇二モ五〇	ハウ <sup>*</sup> ネ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	一人	六〇四ニ <sup>2</sup> ウ <sup>2</sup> ニ <sup>2</sup> オ <sup>2</sup>
ひかり	二一〇九	ひじり(聖)	六〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ハオ <sup>3</sup> 三 <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> 一 <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひかるのせうしやう(老少将)	二一〇九	聖	六〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
老少将	二一〇九	ひそかなり(密なり)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひきいだす(引出す)	二一〇九	ひそかに	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひきいたして	二一〇九	ひだり(左)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひきいたせり	二一〇九	ひち(肘)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひく(引く)	二一〇九	ひち	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひき(中止法)	二一〇九	ひちうのくに(備中国)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひきて	二一〇九	備中国	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひく(比丘)	二一〇九	ひつじ(羊)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
比丘	二一〇九	ひつじ(羊)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひぐわん(悲願)	二一〇九	ひと(人)	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
悲願	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひごふ(非業)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
非業	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひさし(久し)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひさしく	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひじやう(非情)	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
非情	二一〇九	ひと	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>
ひしやりこく(毗沙離國)	二一〇九	ハオ <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup> ハオ <sup>3</sup>	七〇五	ニウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> 六 <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>	ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> ウ <sup>3</sup> ニ <sup>3</sup> オ <sup>3</sup>

(兵部卿致平)

兵部卿致平 百一

ひやくくわん(百官)

百官 三三三

ひやくくろやぎやう(百鬼夜行)

百鬼夜行 三三三

ひやくし(白紙)

白紙 三三三

ひやくせん(百十)

百十 二二二

ひやくにじふねん(百二十年)

百二十年 三三三

ひやくにち(百日)

百日 三三三

ひやくまんへん(百万遍)

百万遍 三三三

ひゆきやう(譬喻経)

譬喻経 三三三

ひよし(日吉)

日吉 三三三

ひらく(開く)(四段)

ひらきて 三三三

ひらく(開く)(下二段)

ひらけて 三三三

ひろたのみやうじん(広田明神)

広田明神 三三三

ふ

ふ(徑)

ふか(りける)

ふかく 三三三

ふかし 三三三

へにける 三三三

ふぎやうぼさつ(不輕菩薩)

不輕菩薩 三三三

ふく(吹く)

ふかれて 三三三

ふくむ(含む)

含む 三三三

ふける(蹴る)

ふけりて 三三三

ふじやうなり(不浄なり)

不浄なり 三三三

ふしむ(不審)

不審 三三三

ふす(伏す)

ふし給へりけるま 三三三

ふせりける

ふせる 三三三

ふせぐ(防ぐ)

ふせかんかために 三三三

ふせき給はむ

ふせく 三三三

ふどぐす(附屬す)

ふた(簡)

ふた

ふた 三三三

ふぢはらのいへつね(藤原家経)

ふぢはらのいへつね(藤原家経) 三三三

藤原家経

藤原家経

ふぢはらのためより(藤原為頼)

原為頼 三三三

藤原為頼

藤原為頼

ふぢはらのちかもり(藤原親盛)

原親盛 三三三

藤原親盛

藤原親盛

ぶつし(佛師)

佛師 三三三

佛師

佛師

ぶつしん(佛身)

佛身 三三三

佛身

ぶつせき(佛跡)

佛跡 三三三

仏跡 五〇二

ぶつだう (仏道)

仏道 一〇二 一〇三 二〇四

一〇五 四〇六 二〇九 二〇三

二一〇 二一〇 三〇五 三〇五

三〇五 四〇四

仏道 三〇五 四〇一

仏口 三〇五

ぶつほふ (仏法)

仏法 四〇一 四〇五 五〇七

二一〇 二一〇 二〇八

ぶつほふ (仏法僧)

仏法僧 三〇五 四〇一

ぶどうそん (不動尊)

不動尊 三〇五

不動尊 三〇五

ぶところ (樓)

ぶところ 三〇五

ぶにん (天人)

夫人 三〇五

ぶね (船)

船 三〇五

ふま (怖魔)

怖魔 一〇五 五〇五 五〇五

ふみ (文)

ふみ 八〇五

文 四〇五

ふみわく (踏分)

ふみわけて 一〇五

ふむ (踏む)

ふまむ 三〇五

ふもと (麓)

ふもと 三〇五

ふりこむ (降込む)

ふりこめられて 三〇五

ふる (旧る)

ふる (旧る) 三〇五

ふる (振る) 三〇五

ふりし 三〇五

ふりて 三〇五

ふる (触る)

ふる (触る) 三〇五

ふるさと (古里)

ふるさと 三〇五

ふるし (古し)

ふるき (連体法)

ぶん (分)

分 三〇五

ぶん (分) 三〇五

ぶん (分) 三〇五

へう (廟)

へう (廟) 三〇五

へがたし (経難し)

へがたく 三〇五

べち (別)

べち (別) 三〇五

へん (辺)

へん (辺) 三〇五

へむじやく (鷓鴣)

へむじやく (鷓鴣) 三〇五

へんす (変ず)

へんす (変ず) 三〇五

ほ

ほう (報)

ほう (報) 三〇五

ほうけういんだらに (宝)

寶印陀羅尼

寶印陀羅尼 三〇五

ほうしやくきやう (宝積)

ほうしやくきやう (宝積) 三〇五

ほうす (崩す)

ほうす (崩す) 三〇五

ほうせん (報せんと)

ほうせん (報せんと) 三〇五

ほうせん (報せんと) 三〇五

ほうぶつしか (宝物集)

ほうぶつしか (宝物集) 三〇五

ほうれんのみこし (鳳凰)

ほうれんのみこし (鳳凰) 三〇五

ほうか (外)

ほうか (外) 三〇五

ほうか (外) 三〇五

ぼくせいす (ト筮す)

ト筮せとするに

ぼくせき (木石)

木石

ほくれい (北嶺)

北嶺

ほこ (鉾)

鉾

ほこる (誇る)

ほこりて

ほさつ (菩薩)

菩薩

菩提

ぼだい (菩提)

菩提

ぼだいじゆ (菩提樹)

菩提樹

ぼだいしん (菩提心)

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

菩提心

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

仏

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

法師

ほろほす (滅す)

ほろほざれて 五〇七

ほんい (本意)

本意 七〇一 一七〇 一八〇一

ほむご (祝語)

祝語 一九〇

ほむし (祝士)

祝士 一〇三

祝士 一〇七

ほんぞん (本尊)

本尊 三六〇 四七五 四七五

本尊 三六四 四七五

ほんてう (本朝)

本朝 三六四

ほむてんたいしやく (祝

天帝釋)

祝天帝釋 三〇一

ほんなう (煩惱)

ほむなう 三〇三 二四〇

煩惱 三〇三

煩惱 一〇四 二〇七 二〇一

煩惱 二四〇 二四〇

ま

ま (魔)

ま 五〇七 五〇八

まいにち (毎日)

毎日 三〇七 三〇七

まいねん (毎年)

毎年 三六四

まうく (設く)

まうくへきなり 一〇三

まうけ給へきなり 一〇三

まうしのべがたし (塵途

難し)

まうしのべがたし 三六〇

申のへかたきに 三六〇

まうしひらく (申開く)

申ひらくに 三〇一

まうす (申す)

申ける 一〇一

申ければ 一〇三 一〇一

申し 一〇三 一〇三 一〇三

申し 一〇三 一〇三

申たるぞかし 三〇六

申たるなり 三〇一 一〇三

申ためる 五〇三 三〇一

申ためれ 三〇三

申ためれば 三〇三

申ためれば 三〇三 三〇三

申て 三〇三

申ていはく 三〇三

申侍なり 三〇三 三〇一

申侍べし 三〇三 一〇三

申 三〇三 三〇三 三〇三 三〇一

申 二四〇 二四〇 五〇一 五〇二

申 (連体法) 三〇三

申 (連体法) 三〇三

申 三〇三

申 (連体法) 三〇三

申 (連体法) 三〇三

申なり 三〇三 三〇三

申に 三〇三 九〇三

申は 三〇三 二四〇 二五〇

申は 三〇三 二四〇 二五〇

申は 三〇三 二四〇 二五〇

まかきなり 三〇三 三〇三

まかきにて 三〇三

申べし 三〇三 三〇三

申しこと 三〇三

申しこゝろ 三〇三

申口 三〇三

まうす (申す) (補助動

詞)

まうす (申す) (補助動

詞)

かそへ申に 三〇三

まうづ (詣づ)

まうてて 三〇三

まうもく (盲目)

盲目 三〇三

まかい (魔界)

魔界 三〇三

まかつだこく (摩訶陀国)

摩訶陀国 三〇三

摩訶陀国 三〇三

摩訶陀国 三〇三

摩訶陀国 三〇三

まかりいづ (罷出づ)

ましがごとく 一四〇

まづし (食し)

まぬかるなんど 三六〇

まかりいてにける 百六

また (副詞)

まつしく (中止法)

まぬかるまじき 分四

まかる (罷る)

又 七〇 一〇四 一八〇 一八〇

まつしぎ (連体法)

まぬかるゝことを 四〇三

まかりて 一〇九

ハウ、モオヤ

四〇一 三三〇

まけいしゆら (魔醜修羅)

また (接統詞)

まつたい (末代)

まぬかれ給ひ 三五〇

魔醜修羅

又 三〇 四〇 七〇 二〇

移修

三六〇

まぬかれぬと 三六〇

まこと (実)

三〇 三〇 四二 四二

まつりかふ (祭変ふ)

まぬかれがたし (免難し) 三〇二

まこと

二〇 四五

またく (全く)

三二

まつりかえつ

三五〇

まぬかれ 〇 ければ 三〇二

実

一〇 四

またく

三二

まつりかへむ

三五〇

まことなり (実なり)

全 二〇 三五

まつりごと (政事)

政事

まことなるかなや 三二

またまた (又々)

四二 四二

まどふ (迷ふ)

三〇 二〇 二〇

まね (真似)

二〇 二〇 二〇

まことに 四〇 四〇 四〇

又々

三〇 一 四六

まどへる

六〇

まね 二〇 二〇 二〇

三〇 三〇 三〇 三〇

まち (街)

三〇 一 四六

まなこ (眼)

六〇

まひ (舞)

三〇 二〇 五〇

三〇 三〇

まち

三〇

まなこ

三六 四六

まひ

三〇

まそのぶ (雅信)

まちうく (待受く)

三〇

まなこ

三六 四六

まひ

三〇

雅一

一三 一〇

まちうけて

一八

まなこ

三六 四六

まひ

三〇

まして (増して)

まつ (待つ)

一八

まなじり (眼尻)

三七

まへ (前)

三〇 三〇

まして 五〇 七〇 一〇

まち給へまなり

一〇

まぬかる (免る)

三五 三六

まへ

三〇 三〇

三〇 三〇

まづ (先)

一八

まぬかる

三五 三六

前

三〇 三〇

ます (増す)

まつ

一八

まぬかる

三五 三六

前

三〇 三〇



まほろし(一) 二〇六、三三六

まま(儘)

ま、 一〇八、三三〇、三三五

まのつ(魔滅)

魔滅 四七〇

まもらふ(守心)

まもらへて 三三一

まもる(守る)

まもる(連体法)

二〇三、二〇五

まやぶにん(摩耶夫人)

まやぶ人 九〇九

摩耶夫人

まわう(魔王)

魔王 五七一、五七三、五七四

まゐらす(参らす)

まゐらせける 三〇五

まゐらす(参す)(補助)

動詞)

むかへまゐらせたりけ

るに 三〇一

まゐりあふ(参合心)

まゐりあはさりければ 六〇五

まゐりあふ(連体法)

六〇六

まゐる(参る)

まゐりける 三〇七

まゐり給て 三〇四

まゐりて 一〇三、三〇五

まゐりて 三〇六

業平中将 〇〇りて参ら

まんぼふ(万法)

万法 一〇七

み

み(身)

み 二〇三、二〇五、二〇七、二〇九、二一一、二一三、二一五、二一七、二一九、二二一、二二三、二二五、二二七、二二九、二三一、二三三、二三五、二三七、二三九、二四一、二四三、二四五、二四七、二四九、二五一、二五三、二五五、二五七、二五九、二六一、二六三、二六五、二六七、二六九、二七一、二七三、二七五、二七七、二七九、二八一、二八三、二八五、二八七、二八九、二九一、二九三、二九五、二九七、二九九、三〇一、三〇三、三〇五、三〇七、三〇九、三一

み 三〇三、二〇五、二〇七、二〇九、二一一、二一三、二一五、二一七、二一九、二二一、二二三、二二五、二二七、二二九、二三一、二三三、二三五、二三七、二三九、二四一、二四三、二四五、二四七、二四九、二五一、二五三、二五五、二五七、二五九、二六一、二六三、二六五、二六七、二六九、二七一、二七三、二七五、二七七、二七九、二八一、二八三、二八五、二八七、二八九、二九一、二九三、二九五、二九七、二九九、三〇一、三〇三、三〇五、三〇七、三〇九、三一

みかたいし(弥勒大士)

弥勒大士 三〇六

みかど(帝)

みかど 三〇六

みかど 三〇六

みかほのふだうじやく 三〇六、三〇七

ねん(三河入道寂然)

参川入道寂然 一四三

みぎ(右)

右 三〇一

みこ(御子)

御子 五〇九、五一一

みこし(御使)

御使 三〇八

みす(御簾)

みす 九〇五

みすいじん(御隨身)

御隨身 三〇九

みだ(弥陀)

弥陀 三〇八、三〇九

みだう(御堂)

御堂 四〇二、三〇三

みだうのくわんぼく(御堂関白)

御堂関白 三〇九

みち(道)

みち 三〇九

みち 三〇九

みちかね(道兼)

道兼 七〇二

みちなが(道長)

道長 三〇九

みちびく(導く)

みちびき(中止法)

みちひき給 三〇五

みちひき給 三〇五

みぢん(微塵)

微塵 一〇七

みつ(満つ)(四段)

みちてぞ 三〇一

みつ(満つ)(下二段)

みて、 三〇九

みづ(水)

水 二〇二、二〇三、三〇三、三〇五

みづから(自)

みづから 三〇九

みつぎもの(貢物)

みつぎもの(貢物) 三〇九

みつきもの 六め

みつく(見付く)

見つけて 二五

みつし 山宗

密宗 三六、三六五

密宗 三六五

みてし(御弟子)

御弟子 一六〇

みてしども(御弟子共)

御弟子とも 三〇

みじ(皆)

みな 二〇、四六、五〇

五、二、三、三、三、三、三、三

皆 三〇

みなひと(皆人)

みな人 五、一、一〇

みね(峯)

みね 三〇

みののくに(美濃国)

みのく 二九

みまほす(見廻す)

見まわして 三三

みやうがう(名號)

名號 三三

みやうくわ(猛火)

猛火 四〇

みやうくねん(冥官)

冥官 四〇

みやうじゆ(命終)

命終 三〇

みやうり(名利)

名利 三〇

みやうわう(明王)

明王 三〇

みゆ(見ゆ)

みゆる(連体法) 三〇

みえず 三〇

みえたり 三〇、四〇

みどつるは 一〇

みえて 一〇、二〇、三〇

みえぬかな 九〇

みえ侍ける 三〇

みゆき(御幸)

みゆき 三〇

みらい(未来)

未来 三〇、三〇、三〇、四〇

みる(見る)

み(中止法) 三〇

みけれは 三〇、三〇

みさりけるが 三〇、三〇

みし 四〇

みじかとも 三〇

みたてまつらん 三〇

みたてまつり 三〇

みたてまつる 三〇、三〇

み捨けれは 三〇

み給 三〇

み給へし 三〇

みて 三〇、三〇、四〇、四〇

みば 三〇

みむ 三〇、三〇

みる(連体法) 三〇、三〇

みるに 三〇、三〇、三〇

みれば 三〇、三〇

みるおつ

みるおつ

みろく(弥勒)

弥勒 八〇

みわがね(三輪)

みわがね 三〇

みんぶきやうながいへ(民部卿長家)

民部卿長家 四〇

みんぶきやうやすのり(民部卿保則)

民部卿保則 六〇

民部卿保則 六〇

む

むかし(昔)

むかし 四〇、七〇、六〇

昔 一六、一六、三三、三三

むかしものがたり(昔物語)

昔 一六、一六、四三

むかしものかたり 九〇

むかふ(向ふ)

むかひ捨ける

むかひて

むかふ(迎ふ)

むかへまいらせたりけるに

むげに(無下に)

むげに

むこまう(無虚妄)

無虚妄

むごむ(無慚)

無慚

無慚

むし(虫)

虫

むじやう(無上)

無上

むじやう(無常)

無常

むじやうぜん(無常尊)

無上尊

むじやうぼだい(無上菩提)

提

無上菩提

無上菩提

むしむ(無心)

無心

むすめ(女)

女

むち(無智)

無智

むね(旨)

むまる(生る)

むまる

むまる(連体法)

むまれ(中止法)

むまれず

むりやう(無量)

無量

むりやうごん(無量劫)

無量劫

め(女)

め(目)

め(名師)

めいど(冥途)

めいしよ(名所)

め

め(女)

め(目)

め(名師)

めいど(冥途)

めいしよ(名所)

めぐる(廻る)

めくり(中止法)

めくる

めす(召す)

めされぬ

めして

めすに

めつ(滅)

滅

めつす(滅す)

めのと(乳母)

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

滅するがごとく

めてたし(目出度し)

めてたき(連体法)

めてたくそ侍める

たたく侍

めのと(乳母)

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

めのと

「をもち」

こゝをもち 一四七 四〇六

喩をもち 三〇四

はし花をもち 二〇五

うちかつをもち 一四七

安部の氏をもち 五〇五

たとひをもち 七〇二

なすをもち 一〇四

子をもち 三〇八

天童録をもち 四〇六

してみそぶ(弄ぶ)

もてみそひて 一〇九

もてなす(持て成す)

もてなし 三〇七

もと(下)

もと 三〇一

もとむ(求む)

もとむへし 一〇二

もとむる 二〇三

もとむる(連体法) 四〇六

もとめ給けり 三〇九

もとめ給へきなり

一〇一 二〇五

もとめて(中止法) 三〇三

もとめてこそ 二〇三

もとのむ 一〇四

もとめよ 一〇四

もとも(尤)

尤 一〇三

もの(物)

もの 三〇四

物 四〇一

もの(物・者)(形式名詞)

「連体形十もの」

もの 四〇三 一〇三 一〇一

三〇四 三〇五 三〇六 三〇七

三〇八 三〇九 三〇一〇 三〇一

三〇二 三〇三 三〇四 三〇五

三〇六 三〇七 三〇八 三〇九

三〇一〇 三〇一 三〇二

三〇三 三〇四

三〇五 三〇六

三〇七 三〇八

もの 三〇四

もの、 三〇五 三〇六 三〇七

ものほ 三〇八 四〇一 四〇二

ものも 三〇九

ものを 四〇三 四〇四 四〇五

「のもの」

のもの 三〇六 四〇二

の物 三〇七

重罪□物 三〇八

ものうし(物憂し)

ものうく(中止法) 四〇六

ものがたり(物語)

ものがたり 三〇九

ものさばかり(物騒し)

ものさばかり 一七〇 一七一

もはら(専ら)

もはら 三〇九

もはら

もはら

もはら

もはら

もはら

ももぞののちうなごんや

すみつ (桃園中納言保光)

桃園中納言保光

もろすけ (師輔)

師輔

もろもろ (諸々)

もろく

もん (文)

もんじ (文字)

もんじやく (問籍)

もんじやく

もんじん (門人)

もんぜん (文選)

もんごも (文等)

もんぶ (文武)

文武

や

や (矢)

やう (様) (形式名詞)

「運体形十やう」

あらんするやう

給やう

とりはたたつやう

「のやう」

須弥山のやう

羅睺羅のやう

善屋比丘のやう

極楽のやう

あしあどの口う

やうくわんりつし (永観

律師)

永観律師

やうけんわう (影賢王)

影賢王

やうばいたうり (楊梅桃

李)

桜梅桃李

やうめいもんねん (陽明

門院)

陽明門院

やうやう (漸つ)

やうく (焼く)

やかれ

やくし (薬師)

やくしにむらい (薬師如

来)

やくし

やきうつ (焼棄つ)

やきうてつ

やぎやう (夜行)

夜行

やどる (宿る)

やどす (宿す)

やどし (中止法)

やどる (宿る)

やどりたまひしより

やば (野馬)

野馬

やぶる (破る)

やふるといふとも

やま (山)

薬師如来

やくどうじ (薬童子)

薬童子

やさし (優し)

やさしくこそ

やすし (易し)

やすき (運体法)

やそう (野叟)

野叟

やどす (宿す)

やどし (中止法)

やどる (宿る)

やどりたまひしより

やば (野馬)

野馬

やぶる (破る)

やふるといふとも

やま (山)

やま

やま

やま

山ヤマ (一ウラ一五ウ)

やまう (病) ↓やまひ

やまう

やまおくり (山送り)

やまをくり

やまがつ (山賤)

やまかつ

やまごと (山里)

やまさこ

やまでら (山寺)

山寺ヤマテラ

やまでらほふし (山寺法

師)

山寺法師ヤマテラホウシ

やまとものがたり (大和

物語)

大和物語

やまのゐのだいなごんみ

ちより (山井大納言道頼)

山井大納言道頼ヤマナナノミチノリ

やまひ (病) ↓やまう

やまひ

二四ウ、二五ウ、二五ウ、二五ウ

病ヤミ

二五ウ、二六ウ、二五ウ、二五ウ

やみ (闇)

やみ

やむ (止む) (四段)

やみ (中止法)

やみぬ

やむ (連体法)

やむ (止む) (トニ段)

やめ給

やや (稍)

や、

ゆ (湯)

ゆ

ゆいけう (壇教)

遺教ヰウキョウ

ゆいな (維那)

維那ヰナ

ゆかしがる (床しがる)

ゆかしかりしかば

ゆき (雪)

ゆきあふ (行合ふ)

ゆく (行く)

ゆきて

ゆきぬ

ゆく (連体法)

ゆふぐれ (夕暮)

ゆみく

ゆみべ (夕べ)

ゆふへ

ゆめ (夢)

ゆめ

ゆめゆめ (夢々)

ゆるす (許す)

ゆるす

ゆめく

三三六

ゆるす (連体法)

一ウ、二ウ、三ウ

ゆゑ (故) (形式名詞)

輝体形 + ゆゑ

たふときゆへなり

死するゆへに

うしなふゆへに

やまひをもちゆへに

「連体詞 + ゆゑ」

このゆへに

そのゆへに

「かゆゑ」

「別なきがゆへに」

おそれあるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

重罪 □物なるがゆへに

力チカラにふるがゆへに

三〇六

女メ(夜)

せめらる□がゆへに

三〇七

女メ(余)

臨終リンシユ正念テイゼンならざるがゆへに

三〇八

女メ(曲)

心なきがゆへに

三〇九

女メ(良し)

由なきがゆへに

三一〇

女メく

交マヒもきがゆへに

三一一

女メくして

そくがゆへに

三一二

女メき(連体法)

女メはきがゆへなり

三一三

女メ子(他所)

功徳クツトクのゆへに

三一四

女メのなか(世中)

帰依キイせ

三一五

女メのなか

女メ(世)

三一六

女メは(夜半)

三二〇 三二二 三二四 三二六

女メ(夜)

女メ(余)

女メ(曲)

女メ(良し)

女メく

女メくして

女メき(連体法)

女メ子(他所)

女メそ

女メのなか(世中)

女メのなか

世中

女メの中

女メは(夜半)

女メは

女メはし(弱し)

女メはきがゆへ

女メはひ(懸)

女メはひ

女メひ(宵)

女メひ

女メひはなつ(呼放つ)

女メひはなちて

女メほろ(丁)

女メをろ

女メむ(詠む)

女メみ給ひける

女メみ給ける

女メみて

女メみてぞ

女メみ侍ける

女メむ(連体法)

女メめと

女メめるなり

女メめるは

女メりみち(頼道)

頼道

頼一

よる(依る)

よりて

よるが

よるべし

よるこび(喜ぶ)

よるこび給はず

よるこび給

よるこびて

よろづ(方)

よろつ

5

らいがう(来迎)

来迎

らいがういんせん(来迎)

引換

来迎引換

らうご(老後)

老後

らうそう(老僧)

三二七

老僧 ラウソウ 三三〇

らうも (老母) ラウモ 三三〇

老母 ラウモ 三三〇

らん (羅漢) ラン 三三〇

羅漢 ラカン 三三〇

らく (樂) ラク 三三〇

樂 ラク 三三〇

らごら (羅睺羅) ラゴラ 三三〇

羅睺羅 ラゴラ 三三〇

らせつによ (羅刹女) ラセツ 三三〇

羅刹女 ラセツ 三三〇

らん (蘭) ラン 三三〇

らん (蘭) ラン 三三〇

らんしやう (乱声) ランシヤウ 三三〇

乱声 ランシヤウ 三三〇

りう (竜) リウ 三三〇

竜 リウ 三三〇

りうぎゅう (琉球) リウギウ 三三〇

琉球 リウギウ 三三〇

りさんす (離山す) リサンズ 三三〇

離山す リサンズ 五〇二

りしやう (利生) リシヤウ 五〇二

利生 リシヤウ 五〇二

利口 リク 五〇二

りやうあむ (諫閣) リヤウアム 五〇二

諫閣 リヤウアム 五〇二

りやうせん (靈山) リヤウセン 五〇二

靈山 リヤウセン 五〇二

りやうのぶわう (梁武帝) リヤウノブワウ 五〇二

梁武帝 リヤウノブワウ 五〇二

りやく (利益) リヤク 五〇二

利益 リヤク 五〇二

りむじゆしやうねん (臨終正念) リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

臨終正念 リムジユシヤウネン 五〇二

れい (例) レイ 二〇五

例 レイ 二〇五

れいせい (冷泉) レイセイ 二〇五

冷泉 レイセイ 二〇五

れいせい (冷泉河原) レイセイ 二〇五

冷泉河原 レイセイ 二〇五

冷泉川原 レイセイ 二〇五

冷泉川原 レイセイ 二〇五

れいせい (冷泉院二宮) レイセイ 二〇五

冷泉院二宮 レイセイ 二〇五

冷泉院二宮 レイセイ 二〇五

れいけむ (靈験) レイケム 二〇五

靈験 レイケム 二〇五

れうがん (竜顔) レイガン 二〇五

竜顔 レイガン 二〇五

れうびやうみん (療病院) レイビヤウミン 二〇五

療病院 レイビヤウミン 二〇五

れんぐゑ (蓮花) レングヱ 二〇五

蓮花 レングヱ 二〇五

れんぐゑ (蓮花) レングヱ 二〇五

蓮花 レングヱ 二〇五

ろく (録) ロク 三〇四

録 ロク 三〇四

ろくぐわち (六月) ロクグワチ 三〇四

六月 ロクグワチ 三〇四

ろくぐんびく (六軍比丘) ロクグンビク 三〇四

六軍比丘 ロクグンビク 三〇四

ろくしう (六種) ロクシウ 三〇四

六種 ロクシウ 三〇四

ろくしちぐわち (六七月) ロクシチグワチ 三〇四

六七月 ロクシチグワチ 三〇四

ろくでうのしんぬん (六条新院) ロクデウノシンヌン 三〇四

六条新院 ロクデウノシンヌン 三〇四

ろくにん (六人) ロクニン 三〇四

六人 ロクニン 三〇四

ろくにん (六人) ロクニン 三〇四

六人 ロクニン 三〇四

ろくにん (六人) ロクニン 三〇四

六人 ロクニン 三〇四

ろくにん (六人) ロクニン 三〇四

六人 ロクニン 三〇四

ろくにん (六人) ロクニン 三〇四



ろくはら (六波羅)

六波羅

三〇〇

ろくまぎ (六巻)

六巻

一〇〇

わ

わう (王)

王

五〇〇

わうくう (王宮)

王宮

一〇〇

わうし (王氏)

王氏

三〇〇

わうじ (王子)

王子

三〇〇

三〇〇

わうじやう (往生)

往生

四〇〇

わうじ

往生

一〇〇

わうじやうごくらく (往生極楽)

往生極楽

三〇〇

往生極楽

三〇〇

わうじやうす (往生す)

往生し

三〇〇

往生す

往生する

三〇〇

往生する (連体法)

三〇〇

往生せむこと

三〇〇

わか (和歌)

和歌

一〇〇

わか (我が)

わか

三〇〇

我が

我が

五〇〇

我が

我が

三〇〇

わかぎみ (若君)

わかきみ

三〇〇

わかし (若し)

わかしくて

三〇〇

わかくて

わかくて

三〇〇

わかくまり

三〇〇

わわ (死する)

わかす (滯す)

三〇〇

わかして

わかば (若葉)

三〇〇

わか (脇)

わき

三〇〇

わけく (分来)

わけきて

三〇〇

わしる (走る)

わしりて

三〇〇

わする (忘る)

わすれたる

三〇〇

わすれては

わたる (渡る)

わたりければ

三〇〇

わたりなんやと

わたるべきこと

三〇〇

わたるべきなり

わづかなり (僅なり)

三〇〇

わづかに

わづらふ (遊ぶ)

三〇〇

わつらひて

わらは (童)

三〇〇

わらは

わらふ (笑ふ)

三〇〇

わらひし

わる (割る)

三〇〇

われて

われ (我)

三〇〇

われ

われ

三〇〇

われ

われら (我等)

三〇〇

われら

われら

三〇〇

われら

わろし (悪し)

わろくて

三〇〇

わろしと

わろしと

三〇〇

わろしと

わろしと

三〇〇

わろしと

三〇〇

るぎ(威儀)

威儀 キキ 三〇五 二〇五

るのしし(猪) ↓ る

るのしし イノシシ 一八七〇

猪 イノ 二〇〇四 二〇〇五

るる(居る)

るられて イラレ 二〇〇二

るんがう(院号)

院号 イノ 二〇〇六

る

るざう(絵像)

絵像 エゾウ 三〇〇一 三〇〇四

るしやうてんし(会昌天)

会昌天子 エシヤウテンシ 三〇〇七

るちぜんのかに(越前国)

越前国 エチゼン 二九〇四

るふ(酔ふ)

るひて イユ 二九〇二

るんあう(鴛鴦) ↓ おし

鴛鴦 ウヰヤウ 二〇〇九

るんいうぬん(円融院)

円融院 エンニウイン 二〇〇五

るんこう(猿猴)

猿猴 エンコウ 二〇〇三

るんこく(遠国)

遠国 エンコク 二〇〇七

を

をかす(犯す)

をかされて カサレテ 二〇〇六

をかみ(拝み)

をかみし カミシ 二〇〇五

をかむ(拝む)

をかみ給 カミキヨ 二〇〇三

をかみ給なり

をづけ(麻小筍)

おこけ マコノ 二〇〇四

をさなし(幼し)

おさなしとて サナシト 二〇〇七

をし(借し)

かりければ カレバ 二〇〇三

をしふ(紋ふ)

をしへ(中止法)

をしへて カサヘテ 二〇〇四 二〇〇五

をしへ(教へ)

をしへ カサヘ 二〇〇三

をしむ(借しむ)

おしみ(中止法)

をしこ(男)

おとこ オトコ 二〇〇六 二〇〇五 二〇〇三

をし(小野)

小野 コノ 二〇〇三

をしこ(男)

男 オトコ 二〇〇二

をし(終り)

をり オリ 二〇〇二

をし(折)

をり オリ 二〇〇四 二〇〇五

をぞ(鳥鷄)

鳥鷄 ウヰ 二〇〇二 二〇〇四 二〇〇五

をん(恩)

おむ オン 二〇〇三

をんじやうじのないくち

こう(園城寺内供智興)

園城寺内供智興 エンジョウジノイノチキウ 二〇〇三

をんてき(怨敵)

怨敵 オンテキ 二〇〇三

をんとく(恩徳)

恩徳 オントク 二〇〇三

をむな(女)

女 メ 二〇〇三 二〇〇五 二〇〇六

をむなまむだち(女公達)

女公達 メノミチ 二〇〇三

をむなび(女子)

女子 メノコ 二〇〇三

をむなまむだち(女公達)

女公達 メノミチ 二〇〇三

をむなび(女子)

女子 メノコ 二〇〇三

經文等引用句

仏及衆□

一〇八

隨世似望有一

背俗如狂人

穴覆哉世間

何処隱一身

四〇三

我少出家得阿耨多羅

一〇二

此□壽不定

一〇八

今此三界皆是我有

其中衆生悉是吾子

一〇七

我觀一切普皆平等

一一〇

若仏不出於世間

一切衆生受大苦

即無人天唯惡趣

但聞種々苦音聲

一〇四

惡病除喻乃至速證

無上菩提

一〇六

種々諸惡趣

地獄畜生

生老病死苦

以漸悉令滅

若我誓願大悲中

一人不成二世願

我墮虛妄罪過中

不還本覺捨大悲

難ト衆生能度相現

悲愛衆生慈如一子

千手千眼觀世音

生々世々希有者

一間名号滅重罪

無量仏果得成報

一〇二

念々勿生疑

一〇八

造作五逆罪常念地藏尊

遊戯諸地獄決定代受苦

今世後世能引導

一〇七

「藤」  
関院 正 大将 朝光  
モウ1

「藤」  
小 一 条 右 大将 清時  
モウ1

「源」  
六 条 左 大臣 殿  
モウ1

「藤」  
栗 田 右 大臣 殿  
モウ2

「源」  
根 園 中 納 言 保 光  
モウ2

「山」  
山 井 大 納 言 道 賴  
モウ4

「内」  
二 郎 内 大臣 左 大将  
モウ4

「これも関白したまへり  
実は末子なり」

モウ4

附記

本稿の製版において、  
牧野泰子・松本光隆両氏  
の御協力をお願いした。  
厚くお礼申し上げます。  
尚、虫損未詳箇所を  
はじめとして、今後更に精  
確を期したい。